

東海地区

大学図書館協議会誌



62

2 0 1 7

東海地区大学図書館協議会

目 次

巻 頭 言	「場」としての大学図書館を考える 豊橋技術科学大学附属図書館長	大 貝 彰	1
講 演 要 旨	「無線綴じ資料の補修」報告 NPO 法人書物研究会代表理事	板 倉 正子	2
講 演 要 旨	西洋の古典籍はどんな姿をしているのか 元跡見学園女子大学教授	高 野 彰	5
講 演 要 旨	水田文庫整理にたずさわって 名古屋大学大学院経済学研究科研究員 元名古屋大学附属図書館研究開発室研究員	中 井 えり子	12
講 演 要 旨	古典籍書誌DBのすすめ(講演抄録) 名古屋大学人文学研究科教授(日本近世文学)	塩 村 耕	20
講 演 要 旨	書く力を磨く！ライティングセンター － 広島大学図書館の挑戦 － 広島大学図書館・広島大学ライティングセンター	上 田 大輔	28
行 事	第 71 回 (2017 年度) 東海地区大学図書館協議会 総会・研究集会		36
施 設 紹 介	豊橋技術科学大学附属図書館		44
	名古屋工業大学附属図書館ラーニング・コモンズ LI:NCs (リンクス)		45
会 則 等			46
総会当番館一覧			50
加盟館一覧			51
役員館一覧			55
研修会一覧			57
広告主一覧			

「場」としての大学図書館を考える

豊橋技術科学大学附属図書館長

大 貝 彰

私は、大学で建築を学び、都市計画の研究者として大学教育と研究に携わってきました。ですので、図書館のことを考える時はどうしてもその専門の立場からみてしまいます。つまり大学図書館に求められる役割と機能、そしてそれらの受け皿となる空間ないし「場」はどうあるべきかです。

今日の大学図書館に求められる機能は、時代の変化とともに大きく変わりつつあります。40年ほど前の私が学生時代は、自分の研究のテーマや方法などについて文献を探すときは、まずは図書館に足を運んで、1時間、2時間かけて調べ、必要ならそれをコピーし、それを持ち帰ってじっくり時間をかけて読んで勉強する、といったスタイルでした。図書館は、先生はもちろん学生にとって自分に課された研究課題やレポートに取り組む際に、様々な情報を得る「場」でした。そのスタイルが大きく変化する契機は、1990年代以降、インターネットに代表される情報通信技術の急速な発展です。今や、少なくとも研究室に配属された理系学生の大半は、自分の所属する研究室あるいは自宅でパソコンに向かって図書館のデータベース検索機能を駆使して様々な文献を調べ、学習や研究に生かしています。さらには大学図書館の機能を利用しなくても、インターネットを介して世界中のサーバ上に存在する情報にアクセスすることができます。あたかも図書館は知的情報を得る「機能」だけに特化したかに見えます。

もちろん大学図書館は学習・研究活動を支えるため電子ジャーナルや電子ブックの提供サービスや学術機関リポジトリの強化に積極的に取り組んでおり、このこと自体はこれからの大学図書館が果たすべき役割の一つであり、その機能強化は不可欠なものです。しかし、一方で従来からの知的情報を得る「場」として図書館を考えてみると、そこは学生が様々な情報を得て学ぶ場であるという原点に立ち還れば、現代の大学教育に求められている主体的・実践的な学びを支えることも、もう一つの極めて重要な役割と言えるでしょう。その役割・機能強化に応えることが大切ではないでしょうか。

私は、以上のような考えから、大学図書館利用の二つの視点として、電子ジャーナルやデータベース検索機能等の強化による”Digital space”の充実と、学生が主体的に学びコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身に付ける「場」としての”Active learning space”の整備を掲げてきました。豊橋技術科学大学は、平成28年度国立大学法人等施設整備費補助金等により附属図書館の改修が行われ、タイミング良く平成29年度の総会当番館として、改修後の1階マルチプラザで総会を開催することができました。このマルチプラザは正に学生の主体的実践的学びを支える「場」の提供を意図しています。本学も他大学同様に、20年近くの間、附属図書館利用者は減少の一途を辿っていました。敢えて言えば、近年は”digital space”としての役割しか果せていませんでした。しかし、今年4月以降の利用者数は、昨年度改修前の2倍から3倍に増加しました。手前みそではありますが、学生の評判も良く、留学生からは高い評価を得ています。改めて学生が学ぶ環境の整備の大切さを痛感しました。

そもそも大学図書館が、大学の教育研究活動を下支えするという役割を全うするためには、やはり時代の流れに沿った教育研究ニーズに応えることが必要です。加えて私の専門の立場からみると、大学キャンパスの中で図書館は、学生や教員の日常的な行動のほぼ中心に位置しています。それはそもそも図書館が教育研究活動の中心にあるという考えが根底にあります。その意味において、大学における「場」としての図書館の役割は、今後益々重要となると考えています。

「無線綴じ資料の補修」報告

NPO 法人書物研究会代表理事

板倉正子

先、平成 28 年 11 月 22 日、名古屋大学附属図書館において、「無線綴じ資料の補修」研修会を担当させて頂いた。この研修会は、平成 27 年より過去 2 回、「東海北陸地区国立大学図書館協会研修会」として行われ、今回ワークショップとしては 3 回目となる。

大学図書館の方々に、損傷した図書の手当について、実践形式で作業を行っていただく形を取っている。全体のタイトルは「図書を優しく修理する」というもので、修理の専門技術を持たない図書館員の方々が、身近なところから図書の修理に取り組めるように、ステップバイステップ形式を取っている。又「優しく」という言葉には、書物に対する敬意をもって、という意味も込めている。

因みに第 1 回は「図書修理実践講座・本を優しく修理しよう」平成 26 年 1 月 23 日、第 2 回は「図書修理実践講座中級編」平成 27 年 10 月 21 日であった。第 3 回目となる今回は、雑誌や紀要等並製本タイプの背表紙の割れについての処置の方法を取り上げた。

講座開催へ向けての手順としては、こちらから修理方法について 2、3 のパターンを提示し、その中からご担当の方が出来るだけ利用範囲の広い、実際に役立つと思われる処置を選定する形で決定される。

本は誰にとっても身近な存在で、そのせいか、「本の修理」は「ちょっと習えば簡単に出来る物」のようにとらえられがちであるが、中々そうはいかない。実はここに問題の根の深さがある。

しかしありがたいことに、昨今は本の修理について抜本的に取り組もうとされる図書館が増えてきており、心強い限りである。

これまでは、ちょっと器用な手作業の好きな一

部の方が、なんとなく取り組むといった形で長年展開されており、時には不適切な処置がなされる場合もあった。

さて、ワークショップの準備であるが、まず、図書館の方にあらかじめ練習台となる図書をピックアップして頂き、当日、講師側でその中から更に適切な本を選定し、実際の教材とさせて頂いている。又、使用道具については、こちらから画像などで提示し、前もって準備して頂いている。

会場設営は、6 人グループの島型とし、二人一組で作業にあたる形を取っている。この二人一組の作業形態にはいくつかの利点がある。まず、教材の数が足りない場合に有効であること。又、一人では決定や作業に自信が無く、躊躇がある場合、相談しながら進めることが出来るので、受講者のストレスも少なく、結果として、作業時間がかなり短縮されるというものだ。

この方式を用いているお蔭で、名古屋大学図書館でのワークショップも、毎回 40 名ほどと、かなり多い受講者にもかかわらず、講座は比較的スムーズに流れる。勿論そこには、受講者の意識と能力の高さも大きく寄与しているといえる。

講座の進行に関しては、まず、概論について少々お話しし、次に映像で、作業内容を見ていただく。その後、実際の教材で、作業を進めるが、その間、数人のアシスタントが各自の質問に答えたり、作業を手助けしたり、ちょっとしたコツを伝授したりと細かくサポートしながら進める。

受講者の方々は日頃は事務作業ばかりで手作業には少々戸惑いがある様子ではあるが、比較的呑み込み早く、むしろ楽しんで作業をされているようにも見受けられる。「頭と手を配分よく使うこと

が脳を疲れさせない」と何かの本で読んだ記憶があるが、体験的にはその通りだと思われる。アンケート結果によると、受講後の感想はおおむね好評である。

現実的な話をすると、この40名という大人数で実際に作業をするためには、メニューの選定、進行の台割、教材の事前準備等かなり綿密なプランが必要とされる。特に、作業は、接着剤の乾燥待ち時間なども必要となる為、どこまで作業を進め、どこで待ち、その待ち時間をどの様に有効に使うか等、相当頭を絞っておかなくてはならない。又、参加者がこちらの予定通りの時間で作業をこなしてくれるのか、作業進度にばらつきがないか、予期せぬ事態が起こらないか、などなど、懸念されることは多い。

しかし幸いなことに皆さん方はこちらの要望をきっちり理解され、どの方も余りばらつきなく、そこそこにほどほどに作業を終えられる。この点はいつも感嘆と感謝である。

図書修理については技術だけでなく、基本理念と方向性をきっちり持つておくことが大切である。「どのように修理されるべきか」は一概には決められない。貴重度はどれくらいか、代替物はあるのか、閲覧は頻繁か、等その資料の置かれた位置づけから、最終的に図書館員が決定すべきことである。

「図書修理を担うのはだれか」、という問題はさておき、少なくとも図書館員は自分は作業に慣れていなくても、一応作業を経験しておくことは肝要である。たとえば修理を業者に外注するにしても、ボランティアを募るにしても、明確な館の方針に基づいた適切な指示を出すことは資料保存という大きな枠組みの中で、図書館員の重要な役割と考えられる。

一方、図書修理の技術を担当していく私達は、机上の空論的技術ではなく、現場のニーズに即した修理技法を研究、開発していくことが責務である。

時間をかけて修理してもすぐまた壊れたり、可逆性の無い方法を用い、次に壊れた時、もう手の打ちようがない場合などは避けねばならない。

しかし一般的には、現場では「簡単でいいから早く直したい」というニーズが一番多くて、中々それに対応することはとても難しい。今後も実験を重ねながら、より良い方法を提示できるように研究を続けていきたい。

図書修理概論

■ 図書の傷みの原因

- ① 不適切な保管・取扱い⇒正しい図書の取り扱い
- ② 構造的な欠陥 ⇒出版社などへの提言
- ③ 経年劣化、及び通常使用による傷み ⇒修理、又は廃棄
- ④ 表装用フィルムによる傷み ⇒使用に関して検討
- ⑤ 返却ポスト ⇒見える化?
- ⑥ 配架に際して、図書をぎゅうぎゅう詰めにしない、斜めに置かない、など

■ 修理

- ① 館内修理と外注修理
- ② 一般的基準 所蔵館独自の基準

■ 図書修理<所蔵館の役割>

- ① 一定の選定基準を設ける
廃棄と再利用の基準、傷みのレベルによる基準など、
- ② (利用状況のチェック)
頻繁に利用されるか、それほど利用がないか、など
- ③ (保管状況のチェック)
保管状況(配架、室温調整 など)
- ④ 修理基準を設定
小規模修理、大規模修理、館内処理、外注処理 など
- ⑤ 製本形態、出版年代などを考慮し、破損、損傷状況を分類
形態 ⇒ 洋本、和本など、上製本、並製本、雑誌など、

時代区分 ⇒ 明治、大正、昭和、平成期、それ以前

■ 図書修理＜準備の手順＞

- ① 修理計画を立てる
(短期的計画、中・長期的計画)
計画のための、劣化、及び状況調査
簡単な手当てで済むもの
継続的処置の必要なものなど
- ② 予算と人材を確保
修理は司書の業務の範疇？
欧米の図書館では一般的に、司書職員（ライブラリアン）と修復専門員（コンサバター）が在中し、業務が分業化されている。
わが国では司書職員が片手間に修理に携わっていたり、長期的展望に基づかないで、安易にボランティアなどに任せていたりするのが現状。
- ③ 道具、材料の調達
- ④ 手引き、参考書、または関連サイトなどの入手

■ 図書修理＜作業の手順＞

- ① 修理記録をとる
修理リスト、修理カルテ、写真資料
次回の修理時に記録となる、また後進のための資料となる、などの利点
- ② 修理後の利用状況と耐久性の追跡調査
修理処置が適切であったかどうか？などの目安となる。

手の加えられた図書は傷んだ図書よりも大切に扱われる傾向がある。この意味でも修理を施すことは有用である。

■ 作業効率について

- ① 図書の傷み状況についての分類とトリアージ（分別）
(あまり細かく分類しない)
同様の傷みの図書を集積して作業に取り掛かる
- ② 部品の準備

(例：クータ用紙は天地、大体の大きさに切りそろえておく、など)

■ その他の注意事項

- ① ボンドその他化学糊は使用を極力避ける。
でんぷん糊の接着力が弱いと感じられる時は、ボンドに澱粉糊を混ぜる。
- ② 深追いしない。完璧を期さない。
- ③ 実現可能な計画をたてる。
- ④ 技法に関しては出来るだけ沢山入手し、自館に合っているか、自館の蔵書に適しているか、検討する。
- ⑤ 技法、使用材料を試す。
- ⑥ 情報交換のためのネットワークづくり

要修理状態の現況や実際に行っている作業全体をマクロの視点で見る

■ 材料

糊（澱粉糊）、和紙等（3種類程度のみ和紙）、クラフト紙（古封筒でも代用可）、寒冷紗（木綿布で代用可）、薄ボール紙、製本用クロスなど

■ 必要な道具

消ゴム、ブラシ、刷毛、筆、カッターマット、カッター、はさみ、定規ピンセット、スパチュラ、ヘラ、いちょうごて=アイロン可、プレス機

* その他の便利な道具

プラ下敷き、透明フィルム、Wクリップ、伸縮ホータイ、竹ひご、楊枝、紙やすりなど



図書館の修復室（イギリス）

わが国でもこのような施設の出来る日を願って。

西洋の古典籍はどんな姿をしているのか

元跡見学園女子大学教授

高野 彰

1. 序

洋書とはどんな姿形をしているのであろうか。洋書は、文字の表示方法によって手書き本（写本）と活字印刷本（刊本）と呼んで区別している。両名称は大まかには時代区分名にもなっている。15 世紀中葉を境にして、それ以前が写本の時代、以後が刊本の時代になる。

しかし両者の姿形に違いはない。姿形は写本の時代に確立し、刊本（印刷本）に継承されたからである。唯一の例外は刊本に追加された扉（タイトル・ページ）だけである。古い刊本だからと言って、特別な姿形があるわけではない。

このように言うと、ホッとする半面、本当だろうかと疑問に思うかもしれない。そこで、この疑問に向き合ってみよう。

2. 二折の紙を重ねて作る折丁

洋書を 1 冊手に取って、どこかのページを開いてみよう。それが図 1 の状態である。真ん中の点線を綴じ目とみなせば、左右の紙は綴じ目を境にしてつながった状態になる。この状態は 1 枚の紙を山折りに半折すれば作ることができる。このようにして作られる形を二折（判）（Folio）という。

二折の紙を何枚か重ねて束にすると、一つの塊

（束）になる。この塊を「折丁」という。そしてこの折丁を 10 とか 20 作り、全体を束ねて綴じれば、本と同じ状態になる。洋書とは二折（見開き一対）の紙の塊なのである。

折丁をいくつも作るより、二折の紙を全部まとめて一つに束ねるほうが簡単である。しかしこの方法だと綴じ糸に負担が掛かりすぎるので、頻繁な開閉には耐えない。折丁内の紙の数を少なくし、複数の折丁で構成させるようにしたのは、本の開閉に耐えるためでもあった。

この束はどんな特徴をもっているのであろうか。そこで図 1 のような二折の紙を 4 枚重ねて 1 折丁となるメモ帳を作ってみよう。前作業として、紙の表裏を識別するために、4 枚の紙のそれぞれ片面に印を付ける。そしてそれらを重ね、図 1 のように、真ん中を山折りにする。

この折丁のどこかのページを開いてみよう。折り目を挟んだ左右のページの（紙の）表裏はどうなっているのであろうか。右と左のページの表裏が異なっているのではないだろうか。

その理由は紙を束ねる時に、紙の同じ面（例えば、印を付けなかった面）を上にして束ねたからである。このような重ね方をすると、中間のページを開くと、左右のページの紙の表裏が一方は白、他方は印の付いた状態になってしまう。今日のように、紙の表裏に差のない漉き方をしていれば目立たないが、表裏の差が激しい紙だと、両ページの表裏が異なるために見苦しい。動物の皮を使った書写材の場合も、なめし方によって表裏に差ができる。

このような見苦しさを避けるには、書写材を重ねるときに、表、裏、表、裏の順に束ねる必要がある。こうすれば、どのページを開いても、左右

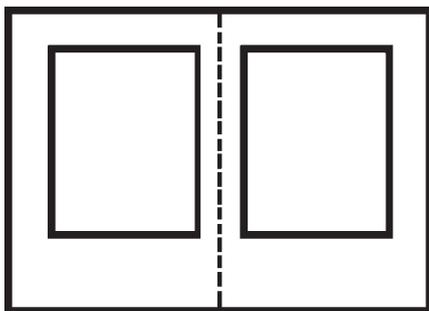


図 1 見開き一対の形

のページは表どうしか、裏どうしになる。

3. 折り畳んで作る折丁

しかしこのように気を使いながら作業をするのは面倒である。それを避けるにはどうすればよいのだろうか。

先ほどと同じように、一枚の紙の片面に印を付け、もう一方の面と区別できるようにしておく。そして紙を半分に折り畳み二折にする。次いでその折り畳み面に対して直角に折って四折にする。最後に折り畳んだ部分を手に持ち、それ以外の部分で袋状になっている箇所を切り開く。

どこかのページを開いてみよう。見開き両ページは表どうしか裏どうしになっているはずである。先ほど、二折の紙を重ねるときに、紙の重ね方には注意が必要だといった。折り畳み方式を用いれば、目的を簡単に達成できることがわかる。

ところがこの方式は問題を内包していた。本であれば、当然であるが、各ページが順番に並ばなければならない。二折判の場合は書写をするにしても、印刷をするにしても、ページ順に作業を進めていけば、順番に並ぶ。ところが四折判(図2)などの判型は折り畳み方式で作るので、ページの配置と折り畳み方に注意が必要になる。そうしないと、折り畳んだ時に、ページ順に並ばなくなってしまうからである。ちなみに、四折判の場合は、図2のようにページを配置する。そして折り畳む時は、先ず紙の長い面(aとa)を山折りに半折する。次いでその折り目と直角にbとbを山折りに半折しなければならない。

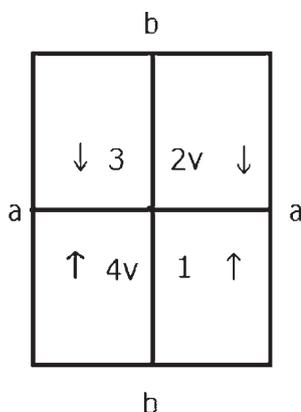


図2 四折判のページ配置(矢印はページの向き)

八折判となるとページの配置と折り畳み方はさらに込み入ってくる。折り畳み方式によって問題は解決したが、この方式は利点を補って余りある難点を抱えていたことになる。

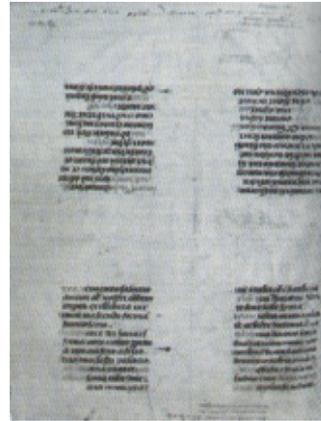


図3 写本の四折判(注1)

写本も本の基本形は二折である。しかし四折判などを折り畳み方式で作るには、ページを図2のように配置する必要がある。そのため書写材を回転したり、裏返しにしたりしながら、書写を続けなければならない。書写のための前作業がかなり面倒であることがわかる。面倒な前作業をしても、写本を折り畳み方式で作ろうとしたのであろうか。図3は羊皮紙に4ページ分が示された珍しい例である。この図は折り畳む前の四折判なので、写本でも折り畳み方式の本造りをしていたことが分かる。折り畳み方式の本造りは写本の時代に既に始まっていたのである。

4. 版面と余白

本は伝達の道具であり、伝達的手段として文字や絵が使われている。この時、文字などはページのどの場所に、どのくらいの量が表示できるのだろうか。別の言葉で言えば、表示部分(版面)と余白との関係である。

図4は1枚物のポスターであり、図5は本の扉である。図4の場合、天地の余白そして左右の余白は同じなので、表示部分は周りの余白に対して真ん中に置かれていることが分かる。ところが図5の場合、天より地のほうが余白は大きいし、左右では、右側の余白のほうが広い。

同じ1ページでありながら、文字の表示位置あるいは表示部分を囲む余白の幅が異なるのは何故であろうか。



図4 ポスター

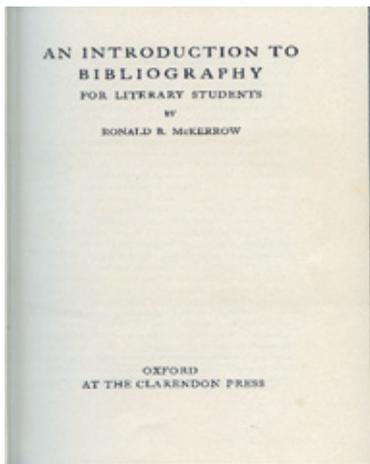


図5 本の扉

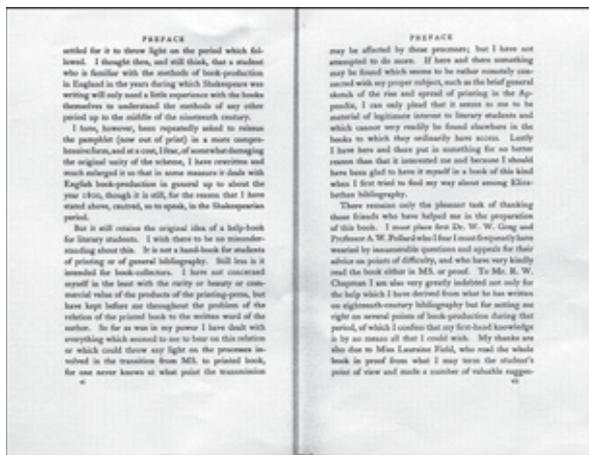


図6 見開きページ

図5は本の扉なので、序のページ（図6）を見よう。図を見ると、文字部分（版面）が左ページでは右側に寄り、右ページでは左側に寄っていて、ページの真ん中にはきていない。ところがこの2ページを一ページのように扱くと、左右の余白と同一スペースが真ん中に存在することが分かる。二つの文字表示部分（版面）は横に対して等間隔で配置されていたのである。本の場合、「見開き一對のページ」を一つの単位として扱っていることが分かる。先ほど図5を示したが、このページは本の冒頭のため、左側には文字ページがない。あるいは巻末だと左ページで終わっていて、右ページのない場合がある。両者とも、見開きページの片面しかない。しかし図5の版面の位置から判断すると、左ページが存在する位置取りである。巻末でも同じ扱いがなされている。本の場合、版面と余白の位置取りは見開き（あるいは綴じ目を挟んだ）一對のページという考え方に基いてなされていたのである。1ページだけで位置取りを考える図4とは大いに異なることになる。

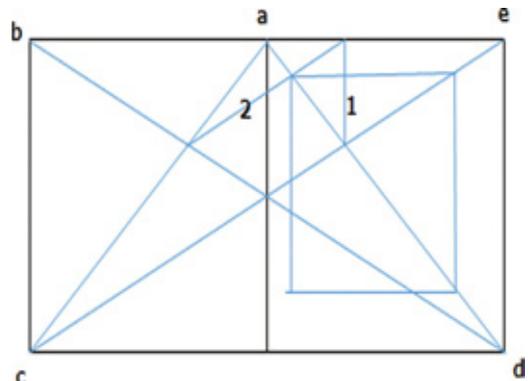


図7 版面（注2）

5. 版面の位置

ところが図6を見ると、見開き一對の紙葉という考え方に基いて版面が配置されていても、左右と上下の配置の仕方は異なっている。左右が等間隔であるのに対して、天地では、版面が上の方に配置されているからである。見開き一對の紙葉上で、版面の大きさと位置はどのように割り出すのであろうか。

図7は見開き一對の紙葉であり、a～eの各地点に対して、aとdそしてbとdを結んだ線、aとcそしてeとcを結んだ線から1の線が引ける。それから2の線が引ける。これで右ページの版面の開始点が決められる。次いで上部、右側、下部そして左側の順に線が決まり、版面全体が出来上がる。これが横組みあるいは横書きをした時の見開きページに対する版面と余白との黄金比率である。

6. 版面の活字組み

版面の大きさや位置は決まった。次は版面を組むことになる。版面は柱から始まり、その下に本文が示されている。まず、柱の組み方を見てみよう。

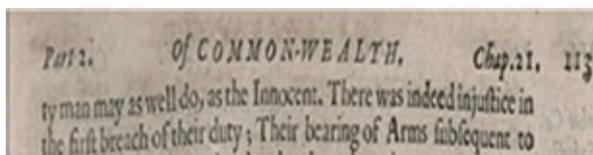
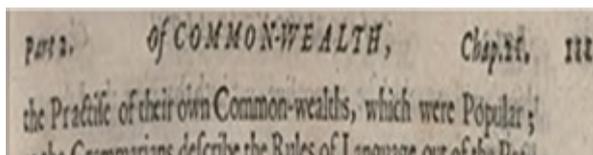
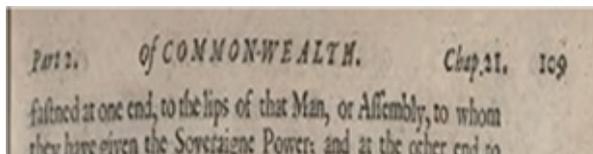
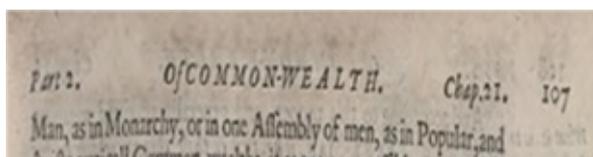


図8 P折丁の表ページの柱

図8と図9はLeviathan (head edition)のP折丁とQ折丁の表ページの柱であり、それぞれ上から1、2、3、4枚目にあたる。例えば、P3の章題は末尾がカンマで終わっている。Q4にもカンマが見える。他にもP1とQ1、P2とQ3、そしてP4とQ2が対応していることがわかる。

柱とは書名や章題のような大きな題名を表示する場所なので、一ページだけの表示に終わることはない。そこで、章題のように、変更のないものはそのまま使い、ページ数のように、変更の必要な部分だけ組み替える。こうすれば、活字組み作業は軽減できる。P折丁の柱表示がQ折丁の柱にも見かけたのはそうしたわけだったのである。

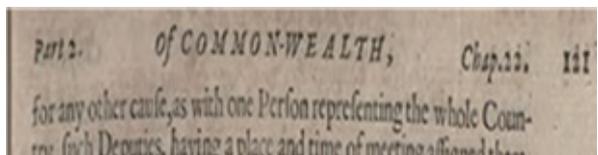
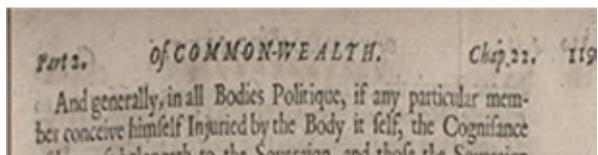
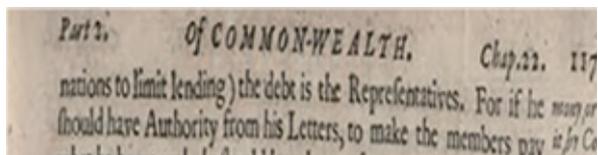
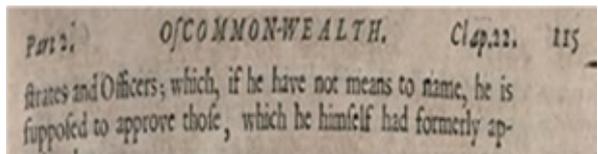


図9 Q折丁の表ページの柱

7. 植字工

次に本文を見てみよう。植字工は原稿に従って本文の活字を組んでいく。植字工は自分専用の活字架を持っていたのであろうか。それとも、植字工たちは一つの活字架を共同で使ったのであろうか。



図10 C

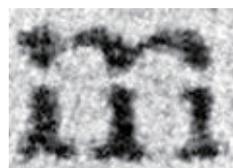


図11 m

印刷作業は印刷、解版、組版の3工程の連続作業である。一つの工程で、ある活字が使われていれば、その活字が別の工程中に使われることはない。従って同じ活字が3工程以内で見つかることはないはずである。例えば、Leviathan (head edition) の中で、図10のC活字はS 1rの次がU 1v、そして図11のm活字は2F 2rの次が2H 4vに見かける。両活字は3工程以上の間隔で、かつその後もし繰り返しかける。

同じ活字を頻繁に見かけるということは印刷後に使用活字が最初の活字架に戻された証拠であり、一つの活字架が専属で使われたことを示している。



図12 印刷所内部 (注3)

図12は印刷所内の様子を示した図であり、奥で作業している2人が植字工である。彼らの前には活字架(活字を納めたケース)が据えられている。当時の欧文活字は大文字、小文字、句読点等の附属活字、合字などが使われていた。

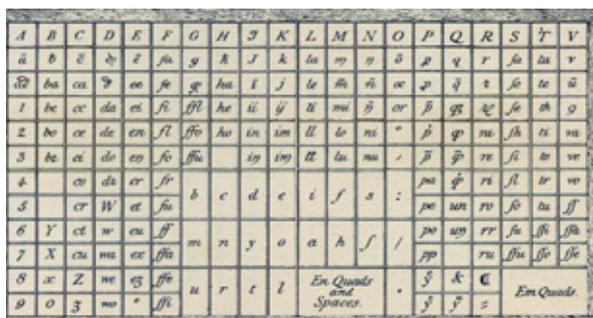


図13 キャクストンの使った活字 (注4)

例えば、図13はイギリスの創始印刷者ウィリアム・キャクストンの使った活字を活字ケースに納めた図である。ここには207種の活字が納められている。これくらいの活字数だと、植字工の前に並べても、それほどスペースはとらない。

植字工には専用の活字架が与えられ、そこに収められた活字を繰り返し使用した。おかげで同じ活字を繰り返し見かけたのである。

8. 前付と本文のページ付け

初期の刊本は、前付と本文のページ付けが異なっていることが多い。活字組みは本文から始まり、目次や序などの前付は最後に組まれた。本文は1ページから始まるので、それより前にくる前付にはローマ数字や記号のページ付をして本文でないことを示そうとしたのである。

9. 印刷機は手動式

現在の印刷機は動力なので、短時間で大量の印刷が可能である。そのため小さな間違いがあったからと言って、印刷機を止めて修正するより、別の工程で修正するほうが効率は良い。正誤表が挿入されるのはそうした理由による。

かつて印刷機は手動だったので、機械を止めてすぐに変更ができた。しかしこうした変更は既に刷り終わった刷り紙にまで及ばないので、内容に統一性がなくなり、細かな異同が頻繁に生じることになった。

10. 修正によって生じた物理的な変動

小さな変更に対して、大きな変更も起こっている。著者自身が内容を大幅に変更することもあるが、加えて、近世には権力者が当時唯一の大量伝達手段である本に対して口を挟み、圧力をかけてきた。おかげで内容の修正を余儀なくされ、大幅な内容の差し替えも起こった。こうした変更は刷り紙を削除したり追加したりするので、本の作りに影響を及ぼす。しかし本といっても、厳密にはそれを構成する折丁に関係した出来事であり、それらは次の2か所で起こっていた。

1. 折丁と折丁の間
 2. 折丁の中
- そして変更には次の3種類がある。

1. 刷り紙の削除
2. 刷り紙の追加（挿入）
3. 同数の刷り紙の削除と追加

折丁と折丁との間では追加挿入しか起こらないが、折丁内では、削除と挿入が起こる。こうした変更はいずれも刷り紙を増減させることになるので、物理的な変更になる。前述したように、本の基本形は「見開き一對の紙葉」あるいは「綴じ目を境にしてつながった紙葉」であるから、この形に対する変更ということになる。

図14のAとBを合わせれば、見開き一對の紙葉となる。Aの右側に見える点線は綴じ目を表している。Bの紙葉を削除する場合、削除は綴じ目で行われるわけではない。残されるA紙葉が剥がれ落ちないようにするために、綴じ目からある程度の距離を置いて切り離す必要がある。その形が図14のAである。紙葉を1枚挿入する場合も図14のAと同じ形になる。従って奇数の刷り紙を挿入したり、削除したりしたときには、Aの形が存在するはずである。

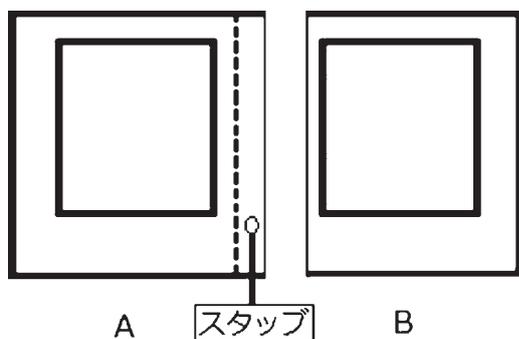


図14 挿入と削除紙葉の形

折丁とは見開き一對の紙葉の集まりなので、紙葉数は偶数になる。奇数の紙葉しかないとなれば、紙葉が削除されたか、新たに追加された可能性が高い。それがどの紙葉に起こっているのかを見分けるには図14のAの形を探し出せば良いはずである。具体的には、綴じ目付近のスタップという小さな綴じしろ探しである。なお、綴じ目に沿って残された綴じしろをスタップ (stub) という。

巻頭や巻末付近は紙葉の削除や追加の起こり易い場所であるが、両者とも本の始まりと終わり付近ということもあって、固く閉じられている。そのためスタップを発見しにくいことが多い。

11. 印刷と製本

印刷が終わると、刷り紙を折り畳み、綴じれば本はできあがる。この最終作業が製本である。製本作業に対して、組み版作業は重要な援助を行っている。

一つ目は組み版を適切に配置することによって、刷り紙を折り畳んだ時に、各ページが順番に並ぶように工夫をしているからである。工夫の様子は図2に示した通りである。

二つ目は各折丁に連番（折記号）を付し、全ての折丁を並べ易くする細工を施しているからである。図15を見ると、下部には折記号B2が示されている。これはB折丁の2枚目の紙であることを示しているの、B折丁の1枚目と3枚目の紙の間に並べることを指示している。

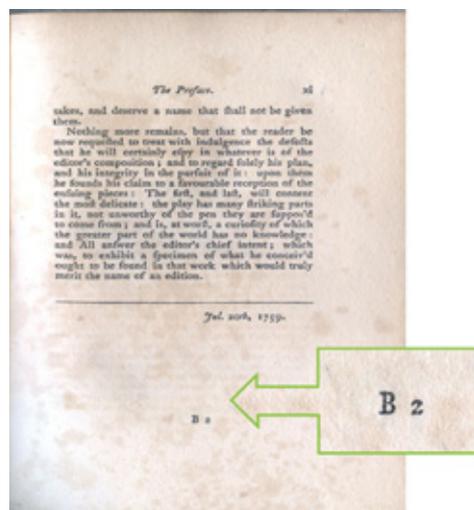


図15 折記号

洋書の古い刊本の姿形を本作りの視点から眺め直してみた。しかし既におわかりのように、これまでの説明は古い刊本に限った内容ではない。本の姿形は少なくとも20世紀後半まで同じ姿を留めている。年代が古いからといって、驚く必要はない。まずは洋書の古典籍を手にとってみる。それが次の一步に繋がるはずである。

注

1. ブラセル, ブリュノ著, 荒俣宏訳. 『本の歴史』
大阪, 創元社, 1998. P. 34.
2. Tischichold, Jan. The form of the book; essays on
the morality of good design. Tr. From the German
by Hajo Hadeler. Ed., with an introd. By Robert
Bringhurst. Washington, Hartley & Marks, 1991.
P.47.
3. Amman, Jost & Sachs, Hans. The book of trades.
With a new introd. By Benjamin A. Rifkin. New
York, Dover Pub., [1973] p. 27.
4. Blake, N.F. Caxton ; England's first publisher.
London, Osprey, 1976. P.74.

水田文庫整理にたずさわって

名古屋大学大学院経済学研究科研究員
元名古屋大学附属図書館研究開発室研究員
中井 えり子

I. はじめに

名古屋大学附属図書館では、2009 年度末から、水田洋教授（名古屋大学名誉教授、日本学士院会員）の旧蔵書で、近代西洋思想史関係の図書・雑誌からなる水田文庫を受け入れており、2015 年 12 月まで主としてその整理・保存に携わった。2015 年 12 月末の水田文庫の総数は 7,300 冊余、うち貴重書指定 2,250 冊余、さらにその中で 1800 年以前刊行の版本は 1,280 冊余であった¹⁾。

2010 年 10 月と 2014 年 12 月に、水田文庫関連の展示会が開催され、その企画に関わったほか、水田文庫の利用拡大のため、『水田文庫概要』（名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室 2013）の執筆、*The Mizuta library of rare books in the history of European social thought : a catalogue of the collection held at Nagoya University Library*. Edition Synapse, Routledge, 2014（「名古屋大学附属図書館蔵水田文庫貴重書目録」以下『水田文庫貴重書目録』という）の編集を担当した。

さらにその後も現在に至っても水田洋教授および水田珠枝教授（名古屋経済大学名誉教授）より貴重書をご寄贈いただいております、担当係による目録作成のため、2015 年度と 2016 年度後半に目録指導を行った。

西洋古典籍についての知識や目録作成については、名古屋大学附属図書館収蔵の大型コレクション「18 世紀フランス自由思想家コレクション」を少し担当しただけで、熟知していたわけではなく、水田文庫に関わっている間に習得したことが多い。当初水田文庫の目録登録を外注したため、『水田文庫貴重書目録』編集の際には、主として記述の統一を図るため、その大半を西洋古典籍目録担当者とともに見直した。その際、1800 年以前の

刊本（多巻物を除く）の校合式（きょうごうしき。折記号を用いて、折り丁の構成を示す。例えば、アダム・スミスの『道徳感情論』1759 初版 八折判の校合式は、 $A^6 B-2M^8 2N^4$ となる）の付与を高野彰氏にご協力をいただいたほか、中央図書館の目録担当者のみでなく、部局図書室員のためにも、たびたび西洋古典籍についての基礎をご指導いただいた。いくつか行なわれた研修の一つを小島由香氏が紹介している²⁾。

さらに貴重書の保存のため、革装丁本の保革油の塗布など、水田文庫の保存に関わる実務研修を 3 回行った。

大前提として、貴重な古典籍といえども、活用されなければ意味がないと考えており、その利用のされ方として、研究者の研究資料としてはもちろんのこと、学生の授業の資料、学会や学生向けの、さらには一般市民向けの展示会への出展、図書館職員の書誌学の実習教材などがある。そのためには版本の違いができるだけ区別できるような目録を作成することが必要であると考えに至った。

これらの経験をもとに、西洋古典籍整理に必要な参考資料について、水田文庫整理の際に使用した資料を中心に紹介する。

II. 西洋古典籍の目録規則類

この節では、水田文庫に限らず、一般の西洋古典籍整理に用いる目録規則類を紹介する。初期刊本の目録作成には以下の標準的な目録規則に準拠する。

・『英米目録規則』第 2 版日本語版 日本図書館協会 1982（2 章 12-18 節）

※ *Anglo-American cataloguing rules*. 2nd ed. の翻訳

- ・『稀観書の書誌記述』一橋大学社会科学古典資料センター 1986.3 (一橋大学社会科学古典資料センター Study series, no.11)

※ *Bibliographic description of rare books.*

Washington, D.C., Library of Congress, 1981 の日本語訳 (岡崎義富訳)

- ・ *Descriptive cataloging of rare materials (books)* . Washington, D.C., Library of Congress, 2007 (3rd printing with corrections, 2011) .

※ 『稀観書の記述目録』(図書) *Bibliographic description of rare books* の3版

<http://rbms.info/files/dcrm/dcrmb/DCRMB3.pdf>

NACIS-CAT に書誌作成をする場合は、『目録情報の基準』第4版、及び『目録システムコーディングマニュアル』に従う。

書誌には、「稀観書につき記述対象資料毎に書誌レコード作成」と注記に記載し、個別に書誌レコードを作成する(参照:『目録情報の基準』4.2.3 図書書誌レコードの作成単位)。

なお、名古屋大学附属図書館の担当係では、これらの規則類に基づいて書誌を作成するための各種マニュアル類を研究開発室の協力を得て整備した。

これらのマニュアルには、上記の規則類をどのように適用するかを決めた規定や、各種の注記の表記の仕方を集めた注記集、目録作成に必要な書誌類や参考資料などを集めたリストなどがあり、学内に公開している。

西洋古典籍は、同一のバージョンのようにみえても、一冊一冊が別のバージョンだと言ってよいくらい違いがあるため、目録作成には書誌の識別や同定ができるようなデータが必要となる。従って規則類だけでは、十分とはいえない。標題紙の記述、頁数、判型が同じでも、Errata (正誤表) や差し替え紙葉の有無に違いがある場合もあり、信頼のおける書誌データと比較してみる必要がある。以下に『水田文庫貴重書目録』作成に実際に使用して、書誌レコードに反映させた資料を中心に紹介する。

Ⅲ. 水田文庫整理に利用した主な書誌類

A. 冊子体

ここで紹介する資料は冊子体であるが、* を付した資料は、HathiTrust Digital Library、The Internet Archive 等でも利用できる。

アメリカの大学／研究図書館協会のサイト Standard Citation Forms for Rare Materials Cataloging に採録されている資料は、「引用形式：」として記載した。『水田文庫貴重書目録』作成時に引用する際に使用した名称は、このサイトの旧版に相当する冊子体によっており、より簡略なものである(Ⅳ. 水田文庫整理に用いた主な参考文献の6、及び注7を参照)。

<一般書誌>

A Short-title catalogue of books printed in England, Scotland, & Ireland and of English books printed abroad, 1475-1640 / first compiled by A.W. Pollard & G.R.Redgrave. v. 1. A-H, v. 2. I-Z. 2nd ed., rev. & enl. London : Bibliographical Society, 1976-1986.

『英国初期印刷文献簡略書名目録』

引用形式：Pollard, A.W. Short-title catalogue of books printed in England, Scotland, & Ireland and of English books printed abroad, 1475-1640 (2nd ed.)

Short-title catalogue of books printed in England, Scotland, Ireland, Wales, and British America and of English books printed in other countries, 1641-1700 / compiled by Donald Wing. v. 1 - v. 3. 2nd ed., rev. and enl. New York : Index Committee of the Modern Language Association of America, 1972-1988.

上記『英国初期印刷文献簡略書名目録』に続く年代1641年から1700年までを対象とする。

引用形式：Wing, D.G. Short-title catalogue of books printed in England, Scotland, Ireland, Wales, and British America, and of English books printed in other countries, 1641-1700 (2nd ed.)

**Catalogue of the pamphlets, books, newspapers, and manuscripts relating to the Civil War, the Commonwealth, and Restoration* / collected by George Thomason, 1640-1661. v.1, v. 2. London : Printed by order of the Trustees, 1908.

17世紀の書籍商ジョージ・トマソンが集めた図書、新聞、手書き文書の目録。

引用形式 : British Museum. *Catalogue of the pamphlets, books, newspapers, and manuscripts relating to the Civil War, the Commonwealth, and Restoration*, collected by George Thomason, 1640-1661

**The National union catalog, pre-1956 imprints : a cumulative author list representing Library of Congress printed cards and titles reported by other American libraries* / compiled and edited with the cooperation of the Library of Congress and the National Union Catalog Subcommittee of the Resources Committee of the Resources and Technical Services Division, American Library Association. 1 - 754. London : Mansell, 1968-1981.

1955年以前に出版された図書の米国、カナダの総合目録。

引用形式 : National union catalog, pre-1956 imprints

Goldsmiths'-Kress library of economic literature. v. 1-v. 8. Woodbridge, Conn.: Research Publications, inc., 1976-1989. 本書は Standard Citation Forms for Rare Materials Cataloging に採録されていないため、ESTC などでも用いられている Goldsmiths'-Kress を引用形式とした。

<匿名辞典> ※匿名もしくは変名で出版された資料の著者を特定するための辞書類

イギリス

**Dictionary of anonymous and pseudonymous English literature* / Samuel Halkett and John Laing. v. 1. A-C - v. 9. Addenda to v.1-8. New and enl. ed. / by W.A. Smith and A.F. Johnson.

Edinburgh; London : Oliver, 1926-1962.

引用形式 : Halkett, S. *Dictionary of anonymous and pseudonymous publications in the English language* (2nd ed.)

フランス

**Dictionnaire des ouvrages anonymes* / Ant. -Alex. Barbier. 3éd. Paris : P. Daffis, 1872. (4 vols.)

引用形式 : Barbier, A.A. *Ouvrages anonymes* (3. éd.)

**Les supercheries littéraires dévoilées : galerie des écrivains français de toute l'Europe qui se sont déguisés sous des anagrammes, des astéronymes, des cryptonymes, des initialismes, des noms littéraires, des pseudonymes facétieux ou bizarres, etc.* / Par J.-M. Quérard. t. 1: A-E, t. 2: F-O, t. 3: P-Z. 2. éd., considérablement augm., publiée par Gustave Brunet et Pierre Jannet. Paris: P. Daffis, 1869-1870.

引用形式 : Quérard, J.M. *France littéraire* (2. éd.)

ドイツ

Deutsches Anonymen-Lexikon aus den Quellen bearbeitet von Michael Holzmann und Hanns Bohatta. Bd. 1 - Bd. 7. Hildesheim : G. Olms, 1961. [reprint ed.]

引用形式 : Holzmann, M. *Deutsches Anonymen-Lexikon*

* オリジナル (Weimar, 1902-1928)

<個人書誌> ※特定の著者の著作等を網羅的に収録した書誌類

紙面の都合もあり、使用した資料を全部は紹介できないが、高校の教科書に掲載されているような著名な作家の個人書誌を紹介する³⁾。

フーゴー・グロティウス : *Bibliographie des écrits imprimés de Hugo Grotius* / par Jacob ter Meulen et P.J.J. Diermanse. La Haye : M. Nijhoff, 1950.

トマス・ホッブズ : *Thomas Hobbes : a bibliography*

/ by Hugh Macdonald and Mary Hargreaves.
London: Bibliographical Society, 1952.
(Illustrated monographs, no. 16)

ダニエル・デフォー : *A checklist of the writings of Daniel Defoe* / John Robert Moore. 2nd ed. Hamden, Conn. : Archon Books, 1971.

デヴィッド・ヒューム : *A bibliography of David Hume and of Scottish philosophy* / T.E. Jessop. New York : Garland Pub., 1983. (The Philosophy of David Hume); *Hume and the enlightenment: essays presented to Ernest Campbell Mossner* / edited by William B. Todd. Edinburgh; Austin, Tex.: University of Texas, Humanities Research Center, c1974.

エドマンド・バーク : *A bibliography of Edmund Burke* / William B. Todd. Godalming : St. Paul's Bibliographies, 1982. (St. Paul's bibliographies, 5)

ジョナサン・スウィフト : *A bibliography of the writings of Jonathan Swift* / edited by Arthur H. Scouten. 2nd ed. / revised and corrected by H. Teerink, edited by Arthur H. Scouten. Philadelphia : Univ. of Pennsylvania Press, c1963.

ヴォルテール : *Voltaire, bibliographie de ses œuvres* / par Georges Bengesco. t. 1 - t. 4. Nendeln, Lichtenstein : Kraus Reprint, 1977-1979.

トマス・ペイン : *The Thomas Paine Collection of Richard Gimbel in the Library of the American Philosophical Society* / compiled by Hildegard Stephans. Wilmington, Del. : Scholarly Resources, 1976.

<出版者の書誌>

*Elzevier (オランダの書籍販売、出版業、印刷業者)
Les Elzevier : histoire et annales typographiques /

par Alphonse Willems. Bruxelles : G. -A. van Trigt, 1880.

引用形式 : Willems, A. Elzevier

Foulis Press (スコットランドの印刷、出版業者)
A bibliography of the Foulis Press / Philip Gaskell. 2nd ed. Winchester, Hampshire, St Paul's Bibliographies, 1986. (St. Paul's bibliographies, 14)

引用形式 : Gaskell, P. Bibliography of the Foulis Press

B. サイトリスト

web 上の書誌レコードを参照したもの

<簡略書名目録>

ESTC (The English Short Title Catalogue) 英国初期印刷文献簡略書名目録

http://estc.bl.uk/F/?func=file&file_name=login-bl-estc

STCN (Short-Title Catalogue, Netherlands) オランダ簡略書名目録

<http://picarta.pica.nl/DB=3.11/>

ここまでで紹介した書誌類については、目録の対象としている書誌が採録されていれば、目録作成の際に注記で、一定の方法で簡略化して記述する。水田文庫の中から匿名辞典と個人書誌を参照した例を一点ずつ掲げる。いずれも標題紙と簡単な解題は、展示会図録『水田文庫新収蔵記念 アダム・スミスと啓蒙思想の系譜』(名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室 2010) に掲載されている⁴⁾。

(匿名辞典を参照した例)

Sketches of the history of Man : in two volumes. v. 1, v. 2. Edinburgh : Printed for W. Creech, Edinburgh; and for W. Strahan, and T. Cadell, London, 1774.

スコットランド啓蒙思想家で、数多くの著作を残しているケイムズ卿の著作『人類史素

描』第1-2巻の初版で、匿名で出版された。
前述のイギリスの匿名辞典で採録されていたので、注記に下のように記載されている。

Anonymous. By Henry Home, Lord Kames.
Cf. Halkett & Laing (2nd ed.), v. 5, p. 288.

(個人書誌を参照した例)

The history of England : from the invasion of Julius Cæsar to the accession of Henry VII / by David Hume, Esq. v. 1, v. 2. London : Printed for A. Millar, 1762.

デヴィッド・ヒュームの『イングランド史：ユリウス・カエサルの侵入からヘンリ七世の即位まで』第1-2巻

注記には、下のように記述されている。

References: Todd, Hume and the enlightenment, p.198

References: Jessop, pp.29-30

<横断検索>

COPAC (Copac National, Academic and Specialist Library Catalogue) イギリスの大学図書館等の総合目録

<http://copac.jisc.ac.uk>

SUDOC (Le catalogue du Système Universitaire de Documentation) フランスの大学図書館等の総合目録

<http://www.sudoc.abes.fr/>

Deutsche National Bibliothek ドイツ国立図書館

http://www.dnb.de/DE/Home/home_node.htm

KVK Karlsruhe Virtueller Katalog ドイツ語圏所蔵目録横断検索

<http://kvk.bibliothek.kit.edu>

<全文データベース 無料サイト>

フランス：Gallica

<http://gallica.bnf.fr/>

ドイツ：Deutsche Digitale Bibliothek

<https://www.deutsche-digitale-bibliothek.de/>

オランダ：Delpher

<http://www.delpher.nl/nl/platform/pages/zoekhulp>

オランダ：Early Dutch Books Online

<http://www.earlydutchbooksonline.nl/en/>

各国：HathiTrust Digital Library 大学図書館書籍アーカイブ

<http://www.hathitrust.org/>

各国：The Internet Archive インターネット・アーカイブ

<http://archive.org/>

各国：Google Books グーグル・ブックス

<https://books.google.com>

<全文データベース 有料サイト>

MOMW-I：The Making of the Modern World. Part I: The Goldsmiths' -Kress Collection, 1450-1850

ロンドン大学ゴールドスミス文庫とハーバード大学クレス文庫所蔵の社会科学関係の図書と雑誌

ECCO：Eighteenth Century Collections Online

オンライン版 18世紀英国・英語圏刊行物集成

EEBO：Early English Books Online

初期英語書籍集成データベース 英国で出版された17世紀以前の印刷物

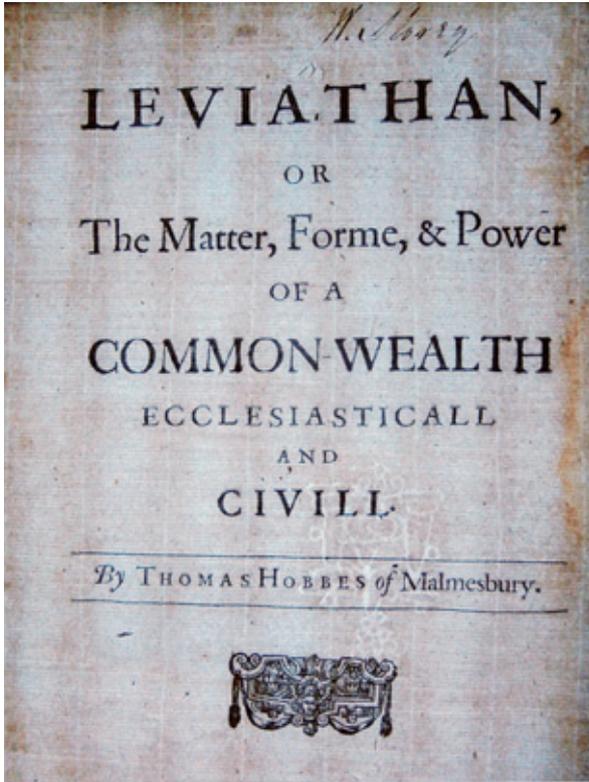


図1 『リヴァイアサン』初版 Head 版の透し模様
(Mizuta II 0012)

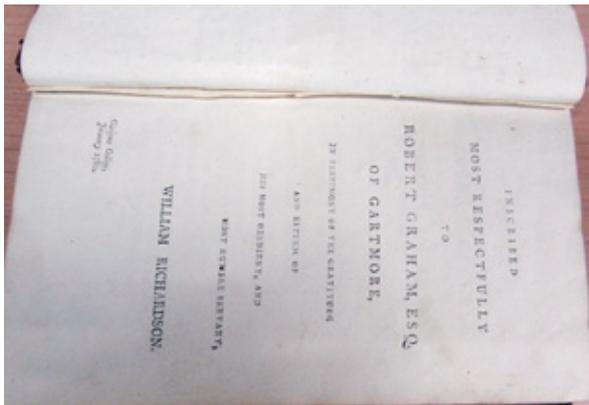


図2 修正新版(1780年)の標題紙のみを差し替えて、修正第3版として1784年に出版したもの。のどところに差し替えた標題紙の stub がみえる。
(Mizuta II 1462)

全文データベースは、白紙頁が印刷されていないデータベースもあるうえ、すかし模様(図1)、スタブ⁵⁾(図2)の有無がわからないなどの短所もあるが、略標題紙や Errata の有無、活字の違いなどを確認することができる⁶⁾。

IV. 水田文庫整理に用いた主な参考文献(書誌以外)

1. 水田 洋『社会思想の旅』新評論 1975
 - 『思想史の森の小径で』秋山書房 1985
 - 『知の商人』筑摩書房 1985 (近代ヨーロッパ思想史の周辺 [正])
 - 『社会思想小史：新稿』ミネルヴァ書房 2006
 - 「蔵書について」『象』No. 66 p. 2-11 (2010.3.15)
 - 「ぼくらの思想形成と蔵書形成」『名古屋大学附属図書館研究年報』第9号 p.45-59 (2011.3)

これらは直接目録作成に必ずしも必要な資料ではないが、著作物の背景を知るうえで役立つ。

2. 高野 彰『洋書の話』第2版 朗文堂 2014
3. 増田勝彦, 岡本幸治, 床井啓太郎 [著]『西洋古典資料の組織的保存のために』改訂版 一橋大学社会科学古典資料センター 2010.6 (一橋大学社会科学古典資料センター Study series, no.64) p.19 保存作業ガイド <http://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/rs/bitstream/10086/18610/1/studys0640000010.pdf>
4. Oxford dictionary of national biography. Oxford, Oxford University Press, 2004. (『英国人名辞典』通称 DNB、有料オンライン版)
5. Duden, Aussprachewörterbuch / bearbeitet von Max Mangold in Zusammenarbeit mit der Dudenredaktion. 6., überarb. und aktualisierte Aufl. Dudenverlag, c2005 (Der Duden in 12 Bänden : das Standardwerk zur deutschen

Sprache / herausgegeben vom
Wissenschaftlichen Rat der Dudenredaktion,
Günther Drosdowski ... [et al.], Bd. 6) 固
有名詞の発音辞典

6. *Standard citation forms for published bibliographies and catalogs used in rare book cataloging* / prepared by Peter M. VanWingen and Belinda D. Urquiza, Library of Congress ; in collaboration with the Bibliographic Standards Committee of the Rare Books and Manuscripts Section, Association of College and Research Libraries, American Library Association. 2nd ed. Washington, D.C. : Library of Congress, Cataloging Distribution Service, 1996. (現在は使用しないで、下のオンライン版を使用)⁷⁾
—— Standard Citation Forms for Rare Materials Cataloging.
<https://rbms.info/scf/>

V. 保存

後世に資料を残すという目的のほかに、展示会や個人の資料利用の際の使い勝手をよくするために行った。

1. 保革油の塗布

タンニンなめし革で装丁された書物の革の劣化を防ぐために、革みがきを行った。

参考図書：岡本幸治「保存作業ガイド」p.22-24 6. 本のクリーニング、

7. 保革油を塗る (IV. 水田文庫整理に利用した主な参考文献3を参照)

2. 保護ジャケット

表紙がとれた小型本に薄い紙の保護ジャケットを、革の劣化が激しい比較的大きな判型の書物に厚い紙のジャケットをかぶせた。

参考図書：同上 p.25-26 9. 保護ジャケット

3. 専門家による修復

1800年以前の刊本で、綴糸が切れた物を優先的に専門家に修復を依頼した。ただし、表紙が取れただけのものでも展示会などでよく利用される古典籍は優先的に修理した。

おわりに

本稿は、東海地区大学図書館協議会主催で、初心者向けの「古典籍の基礎知識」をテーマとする研修会が2017年2月に開催され、その席上で配付した資料に加筆訂正したものである。

ここで紹介した資料については、これからも新しい資料やサイトが増えると考えられる。目録作成作業を中断させないことによって知識を継続させることが望ましい。

西洋古典籍の目録作成については、書誌データを最初からすべて自分で作成するという事例は少なく(天下の孤本を所蔵することは希有なことと思われるため)、ESTCなど既存の書誌データを利用して作成することができることが多い。既存の書誌と現在目録の対象としているバージョンの識別・同定をして、もし違いがあれば、それを注記に記載するなど、書誌レコードに反映させていくことで、目録を完成させることができる。

このたび『水田文庫貴重書目録』を作成するにあたり、ESTCを参照することが多かった。しかし目録の準備を始めた2013年後半から入稿した2014年8月までの間やそれ以降にもESTCが更新されて、目録に反映できなかった書誌もある。目録データは日々進化しているものであるが、オンライン目録では、気がついたときに容易に修正できるので、間違いを恐れずに目録を作成して公開していくことが、利用の促進や目録のレベルアップにつながると思う。

<注>

- 1) 2017年3月31日現在では、総数：7,904冊余、貴重書指定：2,307冊余、うち1800年以前刊行本は1,306冊で、現在も増加中である。
- 2) 小島由香「名古屋大学における「西洋古典籍資料整理研修会」の実施報告」『大学図書館研究』v.101, p.119-124 (2014)
<http://hdl.handle.net/2237/23016>
- 3) 『水田文庫貴重書目録』p. xxxiii-xxxv を参照
- 4) 『水田文庫新収蔵記念 アダム・スミスと啓

蒙思想の系譜』は次のURLで名古屋大学附属図書館のホームページから参照できる。

http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/event/poster/zuroku_201010.pdf

『人類史素描』は p.20 に、『イングランド史』は p.32-33 に掲載。

- 5) スタブ (stub) とは、「紙葉が、通常本が綴じ合わされる前に、対の紙葉から切り放された後、のどの部分に狭く残った紙葉の残存部分のこと」(ジョン・カーター著;横山千晶訳『西洋書誌学入門』図書出版社 1994 の p.366-367 より抜粋)
- 6) 全文データベースがなければ、同一本と判断してしまうような事例を「『水田文庫貴重書目録』編集後記」(『名古屋大学附属図書館研究年報』 vol. 13, 2016) に紹介した。
<http://hdl.handle.net/2237/24050> p.61 右欄 - p.62 のアンソニー・コリンズ『自由思想について』の仏訳本 (Discours sur la liberté de penser. A Londres: [s.n.] , 1766. 2 v. in 1) を参照のこと。
- 7) 『水田文庫貴重書目録』編集時点では、オンライン版の存在に気づかず、冊子体に拠っている。なお、個人書誌は、冊子体にもオンライン版にも採録されていない。

古典籍書誌 DB のすすめ (講演抄録)

名古屋大学人文学研究科教授 (日本近世文学)

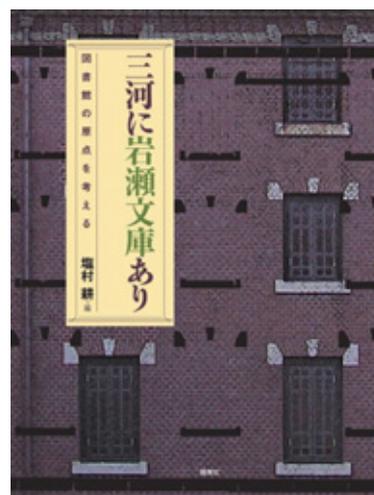
塩 村 耕

渡辺政香の「八幡書庫記」

2000 年 6 月より西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の全資料調査に没頭してきて、ようやくゴールが目前に見えてきました。調査記述した古典籍は、結局 21,000 点あまり、冊数だとざっと 80,000 冊となります。しかも重複する書物はほとんどなく、つまりきちんと選書がなされており、収集は個人の好みに偏らず、広い分野にわたっているという、日本を代表する偉大な文庫です。それを岩瀬弥助 (1867 ~ 1930) という西尾の一商人が私財をなげうって、一般に公開する私立図書館として拵えたのでした。

ただ、たまたま岩瀬弥助という変わった人が現れて、こんな文庫を作ったのではなく、実は三河の地には書物、特に古書を重んずる文化風土がありました。それがかたちとして残っているのが、西尾の岩瀬文庫であり、刈谷の村上文庫 (刈谷市中央図書館現蔵) であり、豊橋の羽田八幡宮文庫 (豊橋市中央図書館現蔵) であるわけです。これら三河の三大文庫は、何れも藩や学校などの公的機関ではなく、草の根的な個人の尽力により成立し、その保存にあたっては、何れも市民の支援が深く関与しているという特徴があります。こんな素晴らしい伝統は、たぶんこの地にしかなく、世界的に見ても貴重な事例で、「三河の市民文庫」として世界文化遺産に登録すべきであると、私は真面目に考えています。

このあたりのこと、岩瀬文庫の成り立ちと、その背景にある三河の書物文化の歴史については、昨年 (2016 年) 12 月に『三河に岩瀬文庫あり—図書館の原点を考える—』(風媒社刊) というブックレットにまとめておきました (図版①)。岩瀬弥助の読書ノートや弥助に宛てた古書店の手紙なども



図版①

初めて紹介し、これまで霧の中だった弥助自身の風貌についても明らかにしていますので、ぜひ御参照下さい。

さて、三河の書物文化の源流に位置するのが、西尾の近郊、幡豆郡寺津村 (西尾市寺津町) にある寺津八幡社の神主で国学者、渡辺政香 (まさか) (1776 ~ 1840) であることがわかってきました。政香は 48 歳の文政 6 年 (1823) 春、友人たちの支援を得て、神社に文庫を開設しました。特筆すべきは、それが公開図書館としてなされたということです。同文庫の書籍は、全て大正末年に岩瀬文庫に買収されて現存しているのですが、その中に初期の蔵書目録があり、その巻頭に「八幡書庫記」という長文の漢文が、渡辺政香の自筆により書き残されていました (図版②)。そこには文庫を開設公開する際の志が、達意の漢文で記されています。今読んでも胸を打たれる、たいへん立派な文章で、全文は先ほど紹介した『三河に岩瀬文庫あり』の中に、注釈を付けて収めてあります。

この「八幡書庫記」は、次の文章で締めくく

れています（原文は白文の漢文）。

凡（およ）そ物は衆と与（とも）に楽しむに如（し）かず、藉（も）し人の神庫の図書を読せんことを請（こ）ふもの有らば、輒（すなは）ち其の請ふ所に随ひて少しも拒まざらん。乃（すなは）ち之と俱（とも）に日新の聖域に窺（うかが）ひ躋（のぼ）らん。

「日新の聖域」とは、四書の一つの『大学』に「湯の盤の銘に曰く、『苟（まこと）に日に新たに、日に新たに、又日に新たなり』と」とあるように、不断の自己改善を説く儒学の重要理念です。



図版②

これは日本図書館史上に特記すべき名文だと思います。全ての文庫・図書館のもつ意義が凝縮して述べられているとって過言ではない。三河の片隅で生涯を送った神主さんが、こんな早い時期に、こんな高い境地に達し、それを実践したことを記憶にとどめておいていただきたいと願います。

本日の話で、私が特に強調したいのは、右に引いた文の冒頭、「凡そ物は衆と与に楽しむに如かず」のところ。図書館というのは、書物を独りで楽しむのではなく、みんなで楽しむ場なのだということを、まず再確認したいと思います。そうであるならば、利用者だけでなく、図書館員も「与に」書物を楽しまないといけません。たとえば、学校で研究を楽しまない教員がいたとした

ら、誰がそんな人の講義を聴きたいと思うでしょうか。図書館もまた然りなのです。

古典籍書誌DBのすすめ

私の考えでは、書誌とは何かというと、その書物を実際に目にしたり手に取ったりすることの出来ない人が、その書物について、的確に把握出来るよう記述することで、基本的にテキストのみで行います。そして、書誌学とは、そういった書誌記述の方法、特にその記述を誤解なく共有するためのコードについて研究する学問だと思います。このように、記述することが、なぜ書物にとって重要であるかということ、書物の研究は本質的に比較研究であり、比較の手がかりを得るためには、適切に書誌を共有することが必要だからです。

さらに基本的な書誌以外に、日本では内容についても何らかの記述を行うことが望ましい。なぜならば、日本の古典籍はあまりにも多彩で、内容記述なしに把握し難い資料が多いからです。また、著者や書写者、旧蔵者、あるいは重要な関連資料などについても、もしも知り得るところがあれば、それも記述した方が親切です。というか、書誌を調査する者は、そういうことについて、どうしても知りたくなるものです。そうであるならば、そういったミニ研究の成果は書き込むべきで、そこまでやらないと楽しくありません。

その際に、記述の方式に過度に統一を求める必要はありません。個々の資料について知る上で、形式の統一はさほど重要な事柄ではないからです。それから、主観にわたる記述を排除すべきではありません。たとえば、版本の刷りのよしあし（早印か後印か）は、主観的判断に属しますが、絶対に必要な書誌項目です。それを主観を恐れて排除していたのでは、いつまで経っても鑑識の能力が涵養されませんし、書誌情報としてもあまり役に立ちません。

さて、近年のネット環境の整備とパソコンの能力の向上は、書誌情報のあり方を劇的に変えました。まず、紙媒体ベースの簡略な目録は、もはや作るべきではないと強く思います。上に述べ来たったような記述的な書誌DBを、ネット上で公

開するのが望ましい。

そして、近年急速に発達したのが、古典籍の全文の画像DBです。これは、オカネさえあれば、業者さん任せで簡単に整備できますので、今後とも進展することでしょう。画像DBについては、原本調査や、テキストによる書誌記述が軽視されるのではないかという危惧もありましたが、ここまで充実するとあまりにも便利で、そんな心配を圧倒してしまいました。読書の幅が格段に広がったというのが私自身の現状です。何よりも画像DBは、書誌記述の際の参考資料として威力を発揮します。今後、画像DBの発達は書誌DBの精度を飛躍的に向上させることでしょう。

ただし、画像DBだけでは古典籍の活用には繋がりません。記述的な書誌DBが不可欠です。日本は歴史的に見て、国民の多くの階層が本に親しみ、書きあrawし、それを大切に残してきた書物の国です。ところが十分にそれを活用出来ていない。全ての文庫や図書館に書誌DBが備わったならば、初めて私たちは日本の古典籍の全貌を明らかにすることが出来ます。それは先人のかつて知らなかった、夢のような事態です。古典籍に興味を持つ人が少し手間ひまをかけてやるだけで、それは現実となることでしょう。

さらに願わくは、あらゆる分野の古典籍の全文テキストDBが整備されることで、全ての国民による古典籍の享受のためには必要です。将来、これら三本柱のDBが整備されたならば、日本の文化や学術の状況は一変することでしょう。

書誌記述の実践は人文学そのものである

人文学やそれをになう文学部には、近年何かと世間の風が冷たく、それに対して『文学部の逆襲』（2015年、風媒社刊）なるブックレットで異議申し立てをしたりしました。

ここでいう人文学とは何かというと、これは私の考えですが、古人の営みに参照すべきものがあると強く考える生き方（ないし信仰）ではないでしょうか。つまり、自然に放っておいたら、社会も人間も、どうも悪くなってゆく傾向があるというのが、人文学的なものの見方だと思っております。

過去を参照することによって、その傾向を何とか少しでも食い止めることが人文学の文明史的任務であり、文学部の仕事です。具体的には、主に書物を通して過去の人とじっくり対話するという人文学的实践を唱道することとなります。

古典籍について、丹念な書誌記述を行うことは、このような意味の人文学的实践にほかなりません。それは無前提に楽しい仕事ですので、古典籍を所蔵する図書館では、何らかの形で行っていただきたいものと願っております。もしも、そのやり方などについて不安な点がありましたら、手弁当でお手伝いをしますので、声を掛けて下さい。塩村亡き後は（笑）、岩瀬文庫や名大図書館の記述的書誌DBを参照して下さい。

ただし、岩瀬の調査も前後17、8年にわたっており、その間、ネットやPCの環境が随分変化しました。またやっているうちに私の考え方も大きく変化しました。初めのころは紙媒体の目録を作る予定だったので、記述が簡略です（それでも従来型のものよりはよほど詳しいですが）。出来れば、比較的近年作ったデータ（岩瀬文庫の場合は全200函のうち、140、50番台以降）を参照して下さい。本来ならば、初めの方のデータはやり直すべきところですが、そんなことをやっていたら、こちらの人生が終わってしまいますので、それは堪忍して下さいね（笑）。

書誌記述を欠かせない古典籍の事例

以下、比較的近年に岩瀬文庫で出会った資料の中から、面白い事例をアトランダムにいくつか紹介しましょう。詳しい書誌記述がどうしても必要なのか、その際にどんな点に着眼すべきなのか、具体的な話の中から感じ取っていただければ、と思います。

○『伊勢物語』（卯函52号）（図版③④）

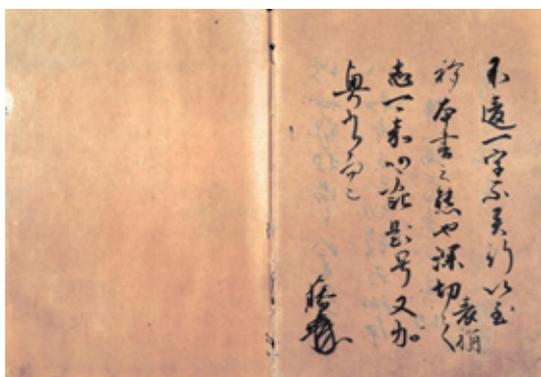
『伊勢物語』の江戸時代の写本で、そんな本はたくさん残っています。これは元禄元年（1688）頃、京滞在中の幕臣鈴木重規が、和歌の師である公家の烏丸光雄に願い出て、烏丸家の秘本を1字も変わらず、行移りもそのままに転写した本だそう

です（底本は、歌学者として有名な中院通勝（みちかつ）書写校訂本を烏丸資慶（すけよし）が書写した本）。とすると、価値のある本文であることがわかります。



図版③

美しい表紙は原本そっくりに模造したのでしょう。題簽は烏丸光雄に書いてもらったもの。公家と幕臣との文化交流の資料としても面白いものです。



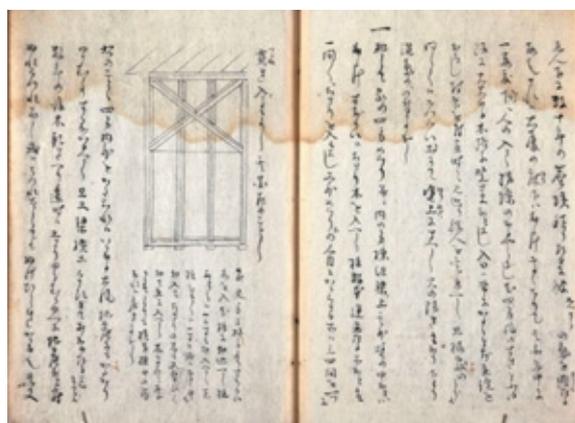
図版④

○『蟻息（ありのいき）』（166函43号）（図版⑤）

文化5年（1808）、加賀金沢の町人、楠部（くすべ）肇（はじめ）（1760～1820）という人の自筆稿本です。書名からは見当もつきませんが、江戸期には珍しい防災論書です。その内容はというと、家は阿蘭陀の如くしっくい塗の塗屋作りになること、四方の壁には「すぢかいのちきり木」を入れること、屋根は瓦葺にし屋根の箱棟や端口破風等は銅で作ること、囲炉裏をやめて竈にすること

と、煙草は徐々に禁止すべきことなどなど、とても見識のある提案が数々なされていて感心します。それらのいくつかでも採用されていたら、命を救われた人も多かったことでしょう。

さらに著者は、何事も昔よりの「有成（ありなり）」（自然）に任せ古法に縛られるのではなく、時世を弁え、知を尽くし巧を練るべきとし、特に士農工商の士は政事に心力を尽し、功を万代に残すべきことを強調します。何でも市場や民間、つまり自然に任せたる今の政治家に聞かせたい意見です。著者には外に『加賀古跡考』なる著述もあったそうですが、伝本の所在が知られないのが惜しまれます。



図版⑤

○『行列図』（辰函69号）（図版⑥）

さる貴人の行列を白描で描いた絵巻です。大勢の人々の風俗や表情までよく描き分けています。成立に関する注記は一切ありませんが、好事家の幕臣で絵をよくした貴志孫太夫忠美（1800～57）の筆です。

乗物には三つ葉葵と杏葉牡丹の紋があり、そこから安政3年（1856）、島津斉彬の養女で、近衛忠熙の女として將軍家定に輿入れした篤姫（天璋院）一行の行列図と判明します。当時、駿府町奉行だった孫太夫が駿府（現・静岡市）で写生したものでしょう。ちょっと調べを入れてやると、背景がわかって資料が活きてきます。大河ドラマの「篤姫」の時までに存在がわかっていたら、テレビなどで紹介されたでしょうに、惜しいことをしました。



図版⑥

○『霊会日鑑 (りようえにつかん)』(寅函 108 号) (図版⑦)

元禄 9 (1696) 年に刊行された市販の過去帳で、空欄にたくさんの書込みがなされています。こういうのは版本といえよいか、写本といえよいか (笑)。

書き入れられた内容から、かつて名古屋城内にあった三之丸天王社 (現・那古野神社) の別当寺院、南之坊と、明治 5 年に同寺が廃寺となった後に引継いだ龍洞庵が、自坊及び本寺の亀尾山安養寺 (天王坊) や常林坊の歴代住持や檀家などを載せた過去帳と判明します。よくぞこんな資料が残っていたもので、明治の廃仏毀釈で失われた別当寺について知る貴重な資料だと思います。



図版⑦

○『手明 (てあき) 村願書』(186 函 149 号) (図版⑧)

岩瀬文庫が盛んに収集を進めた明治末年から大正にかけての時期は、全国の役場から明治初年までの文書が盛んに廃棄されたらしく、岩瀬弥助はそれらをたくさん救出してくれています。これは「福島県雑記録」として一括される文書資料で、中にこんな面白い記録がありました。

享和 2 (1802) 年正月 14 日の晩、飯野村 (現・福島市飯野町、幕府領) の弥七郎が山に積み重ねていた薪木 160 駄を、何者かが焼き払う事件がありました。間抜けなことに、現場に「友吉」の名が記された書付が落ちていたため追及したところ、甚右衛門はじめ 15 人の少年の仕業と判明、弥七郎は川俣役所 (幕府の陣屋) に訴え出ます。

訴えが取り上げられてはたいへんと、少年の親たちは地元の寺院に仲介を頼み、薪木を元通りに積み重ねて、弥七郎に詫言を入れ、役所も内済扱いとして訴えを取下げます。さらに丁寧なことに、役所の指示で、一件を白状した友吉を少年たちがいじめないように、わざわざ一札を取っています。当時の役所仕事は恩情があったのですね。



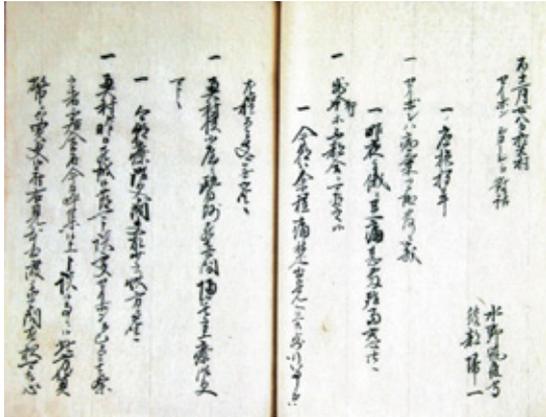
図版⑧

○『小笠原島住民対談録』(152 函 182 号) (図版⑨)

これも役所の廃棄本で、明治初年外務省で作成され内務省で保存された写本です。文久元年 (1861) より 2 年にかけて、外国奉行水野筑後守忠徳と御目付服部帰一が小笠原島を巡見、島に先住する英国や米国人と面談した会話録です。この時の通辞は、かの有名な中浜万次郎が務めています。

居住民の名は、セーボレ、ウエブ、ホートン、ジョージ、ブラボーなどで、島での生活や四季の自然、母国と移住の経緯、永住の希望の有無、母国の制度や風俗などを丁寧に聴取しています。良い仕事をしていて、貴重な記録となっています。なお、7 年前 (安政 2 年か) の「十一月廿三日

第十時頃」に大津波のあった証言があります。



図版⑨

○『現文部大臣の国語科の説に就て』(162 函 229 号) (図版⑩)

明治の法制史・国文学者、池辺義象(1864～1923)の自筆稿本が一山、岩瀬文庫に残っていて、これもその一つです。

明治28年8月、時の文部大臣、西園寺公望が談話を発表します。「余は国文学の如き、之を専門家に譲り、普通学科より除き去るも敢て不可なきを信ずるものなり。試に思へ、徒然草土佐日記を誦するも、深くその堂に入らざれば何の効かある…」。かわりに英語などの「有用の学科」にあてるべきだということです。

これにかちんときた池辺先生がまともに反論した論説の草稿がこれです。いつの時代にもこういう馬鹿を言い出す政治家や役人がいるから、参考になりますね。

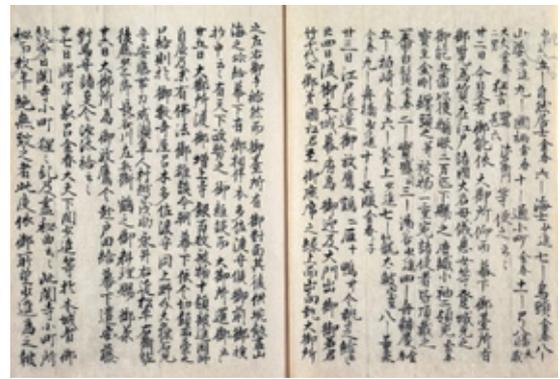


図版⑩

○『駿府記』(135 函 37 号) (図版⑪)

慶長16年(1611)から4年後の元和元年まで、駿府城に住んだ大御所、徳川家康の最晩年の動向を中心に記した漢文体の日記で、重要な歴史資料です。書写識語等によれば、この岩瀬本は林家(りんけ)蔵本を、幕臣で蔵書家の新見正路が影写した本を、さらに伊勢の国学者足代弘訓が再影写した本だとわかります。

本書の筆者が誰であるかについては諸説があるようですが、この岩瀬本は林羅山の筆蹟の特徴をよくとどめており、ほぼ確定するよう思われます。



図版⑪

○『西京記行』(151 函 99 号) (図版⑫)

明治36年11月、東京から鉄道で初めて京都見物に出かけた旅の紀行文の自筆稿本です。梅園雪駒なる未知の著者は岡本氏で東京馬喰町二丁目住。持ち前の「腹へらし」(食いしん坊)で飲食に関する記述が多いのが特徴です。

同行者は「家内の婆々」と隣家の飯田。京都では人力車を駆使して、強行軍で主な名所を全て見て廻ります。たとえば、京都初日は伏見稲荷、東福寺、泉涌寺、豊国廟、三十三間堂、大仏、豊国神社、西大谷、清水観音、東大谷、祇園を経て木屋町の新屋に泊。膳部は松茸の酢漬、芹のひたし物、天ぷら、鱧の塩蒸、あま鯛の塩焼。こんな調子で3泊4日の楽しい旅が綴られます。

明治の書籍は、江戸期のそれよりも却って内容などのわからないものが多いので、丁寧な書誌記述が必要だと思います。

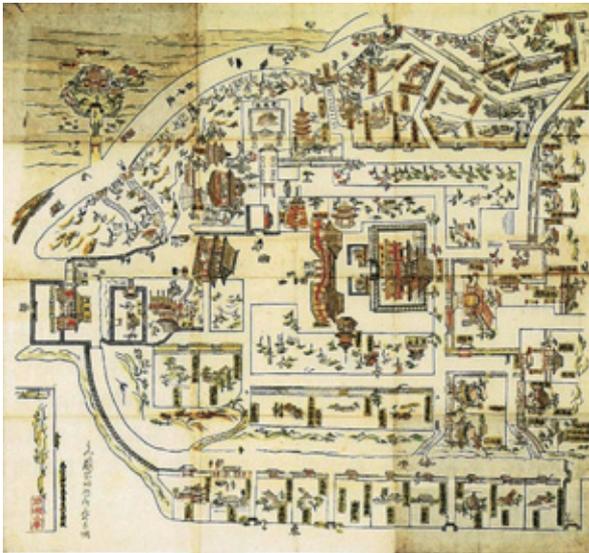


図版⑫

○『〈新板〉東叡山之図』(子函 46号)(図版⑬)

江戸上野、東叡山寛永寺の境内周辺を描いた、古版の絵地図です。刊行者によると見られる手彩色が入っている、古雅な良い図ですね。

刊記は「湯嶋天神切通岩田屋利兵衛板」とあるだけで、刊年がなく、これは遺憾なことです。そこで図をよく見ると、新たに建立された本堂(根元中堂)を主眼とすることに気づきます。この本堂は元禄11年(1698)8月の竣工ですから、その後間もないころの刊行とわかります。



図版⑬

書簡資料の未来

ところで、この数年来、私を興奮させてくれてるのが、早稲田大学図書館を中心に、たくさん

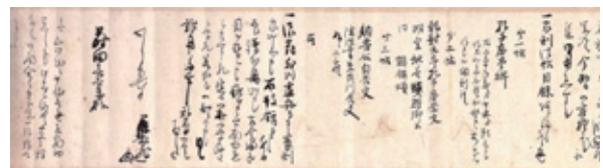
公開してくれている、書簡資料の画像DBです。早稲田のものは、同図書館の初代館長、市島春城(謙吉、1860～1944)の見識により収集された、膨大な名家書簡です。それが百年後の今日、ネット環境が成熟して精細な画像が公開されることにより、一挙に活用できることとなりました。

書簡は勿論、国書総目録(古典籍総合目録DB)が利きませんから、どんな資料が存在するのか、把握するのが難しかった。それが、一挙にわかるようになりつつあり、そうするとこれまで見えなかった人脈が浮かび上がってくる。それが私を興奮させているのです。

たとえば、これは早稲田で公開されている、京の好古家、藤貞幹宛て、伊勢の書家、蒔田暢斎の書簡です(図版は早稲田大学図書館の古典籍総合DBを参照して下さい)。いっぽう、こちらは私が持っている蒔田暢斎に宛てた藤貞幹の書簡です(図版⑭⑮)。こんな風に別々の所にある資料の間に関連性が生じます。資料というのは、単独だと寡黙なのですが、関連するものが一つでも出現すると、俄然多くを語り出すようになるものなのです。



図版⑭



図版⑮

最後に

図書館業界の方々に改善の御検討をお願いしたいことがあります。たとえば、『好色一代男』の版本を国会図書館のDBで引くと、巻1～巻8の8点のデータとして出てくる。これが気持ち悪いのです。書物の分冊というのは便宜的なものに過ぎ

ず、複数冊の書物であろうと、書物は1タイトル毎に扱うべきです。しかも、どういうわけだか巻冊の次序が数字の順番になっていない。何十冊もある場合、いらいらしているのは、人一倍「いらち」の私だけでしょうか（笑）。

もしも画像DBのデータ量の関係で別々にする必要があるのであれば、早稲田のDBのように、いったんタイトル別でくくっておいて、その下で枝分かれするのがよいと思います。

どうも歴史学系の方の作る目録で、版本の上下冊を別々にとるような傾向があるようですが、書物は文書と違うので、そういうやり方は適切ではありません。また、取り合わせ本（複数冊の本で、別のセットから補って揃えた本のこと）の場合、そのことが見えにくくなります。

それから、和書の書名はオリジナルの外題に拠るべきであること（これは別の考え方もあるようですが）も、あわせて付け加えさせて下さい。古典籍の場合は、書名が一つであると限らず、書誌データに「書名の備考」のような欄がどうしても必要です。

書く力を磨く！ライティングセンター

ー 広島大学図書館の挑戦 ー

広島大学図書館・広島大学ライティングセンター

上田大輔

1. はじめに

本要旨は2017年8月22日に豊橋技術科学大学附属図書館で行われた第71回(2017年度)東海地区大学図書館協議会研究集会での発表に加筆・修正を行ったものである。発表では、広島大学ライティングセンター(以下、センター)で行っているライティング支援の事例をもとに、大学での学習におけるライティング支援の必要性、センターの概要、ライティング相談を通じた学習支援、大学図書館とライティング支援のかかわりについて報告を行った。

2. 大学での学習におけるライティング支援の必要性

大学生は、授業での課題や学期末のレポート、卒業論文のように文章を書くことが多く求められる。それは、大学での学びが文章を書くことを重要視していることの表れである。文章を書くことは、単純に知識を獲得するだけでなく、自分が得た知識を整理し、試行し、再構成をしたうえで、自分の言葉で表現することで、より深い学びを得ることができる。

しかし、多くの大学生は文章を書くことについて苦手意識を持っている。山田(2012)によると、大学での学習によって文章表現能力が大きく向上したと答えた米国の大学生は30.2%であるのに対し、日本の大学生は2005年の調査で10.6%、2007年の調査で8.4%にとどまる。²⁾また、渡辺(2013)は、国立大学の新生(4,204人)の64.4%が「長い文章を書くこと」に苦手意識を持っており、20の学習技能の中で最も苦手意識が高かったと述べている。³⁾

つまり、文章を書くことは大学での学習にとっ

て重要であるが、多くの大学生にとっては困難な課題である。このことが、大学でライティング支援が必要となる理由である。学生にとってライティング支援とは、困難な課題をサポートしてくれる重要なサービスであり、図書館が行うかどうかは関係なく、大学として必要とされるサービスの1つである。

3. センターの概要

センターは、学習・研究両面のライティング支援を行い、本学の教育・研究の総合的な機能強化を実現することを目的としている。そのため、学生を対象とした学習支援と研究者を対象とした研究支援の2つのサービスを行っていることが特徴である。ちょうど、愛知淑徳大学のライティングサポートデスクが行っている学習支援サービスと、名古屋大学のMei-Writingが行っている研究成果の公開を支援するサービスとの2つを合わせたようなサービスを行っている。

3.1 センターの組織

センターはセンター長を中心として、副センター長(特任教授・図書館部長、シニアURA)、実務担当者(図書館・研究企画室)、大学院生のライティングチューター(以下、チューター)とライティング・アドバイザー・フェロー(以下、フェロー)で構成されている。センター長は全体の統括を担当し、副センター長は全体の統括とともに実務も担当している。副センター長の下図書館職員と研究企画室のURAがあり、実務全般を担当している。チューターやフェローは実際の相談業務などを担当している。また、センターには運営会議とアドバイザリー・ボードが組織され

ている。運営会議はセンター長と副センター長の他、図書館、研究企画室、教育担当部署、国際担当部署等の副理事や担当者が委員となっており、センターの運営方針などの重要事項を決定する。アドバイザー・ボードは学内の外国人教員がメンバーとなっており、主に英語論文の執筆支援についてのアドバイスなどを行っている。

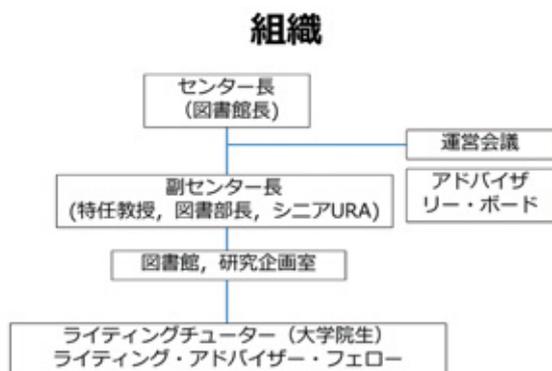


図 1 センターの組織

3.2 サービス内容

センターのサービスは、ライティング支援、英語論文作成支援、セミナーやワークショップの企画・実施、研究成果の発信支援の4つが中心である。ライティング支援は、チューターが日本語あるいは英語のレポートや授業課題、卒業論文、修士論文、博士論文などの学術文章の書き方の相談に応じるサービスである。英語論文作成支援では、英語論文作成相談や英語論文校正費の助成などのサービスを行っている。英語論文作成相談では、専任教員やフェローが、英語の投稿論文、学会抄録、学会発表原稿の相談に応じ、論文全体の構成や展開、論理の一貫性、論文のスタイルなどについてアドバイスをする。英語論文校正費の助成は、英語論文数の増加と質の向上を目的とし、Web of Science や Scopus に収録される雑誌等への投稿済み論文の英文校正費の一部を助成している。研究成果の発信支援は、紀要などの学内発行雑誌の英文抄録の校正費助成とリポジトリでの公開支援、および、人文社会学系の研究成果のサマリーをウェブサイトから公開するサービスを行っている。

これらのサービスは図書館、研究企画室、教員などが連携して行っている。その中で図書館は、ライティング相談の運用・管理、センターウェブサイト管理、WRC システムの管理、セミナーの企画・実施の補助、学内発行雑誌の英語抄録の発信支援などを担当している。

3.3 予算

センターの運営・管理にかかる費用には、学内事業経費と研究大学強化促進事業経費を使っている。学内事業経費は毎年必要額を申請して予算を獲得し、チューターの雇用経費にあてている。研究大学強化促進事業経費は英語論文作成支援などの研究支援サービスにあてている。ただし、1年目は学内予算を措置されなかったため、図書館予算でセンター設置に伴う必要物品の購入やチューター雇用の経費を賄った。

3.4 設立から現在までの流れ

センターは、平成 24 年に設置準備を行い、平成 25 年に設置と学習環境の整備を行った。平成 26 年には研究基盤の整備を行い、平成 27-28 年度には既存サービスの拡大を行って現在に至っている。この期間の主な内容は以下のとおりである。

平成 24 年度

- ・教育の質保証検討 SWG でセンターの設置が提言される。
- ・広島大学の行動計画 2012」で設置が明記される。
- ・図書館長を座長として全学的な設置 WG が組織され、設置要件などの検討を行う。
- ・上記 WG が学長宛に答申を提出する。
 - ▶ 教育学研究科でチューター養成を兼ねた授業を開設
 - ▶ 中央図書館にセンターを設置
 - ▶ 必要な人員は別途検討

平成 25 年度

- ・図書館長がセンター長として任命され、センターが設置される。

- ・教育学研究科で大学院授業を開設
- ・図書館（担当2名、兼任）が運営、管理を担当し、ライティング相談開始に向けて準備を行う。
- ・ライティング相談を担当するチューターの募集・採用
- ・早稲田大学ライティングセンターによるチューター向け研修の実施
- ・ライティング相談（日本語）の開始

平成 26 年度

- ・研究成果の国際発信支援を目的として研究企画室がセンターの運営に加わる。
- ・英語論文での研究成果の発信を強化するため、専任教員が配置される。
- ・英文校正費一部助成制度の開始
- ・学内発行誌の英文抄録校正費助成の開始
- ・英語論文作成相談の開始
- ・各種セミナーの実施
- ・管理・運営事項を審議するための運営会議を組織

平成 27-28 年度

- ・英語文章のライティング相談を開始
- ・他キャンパスの利用者のために、Skype を用いたオンラインライティング相談を開始
- ・オンデマンド英語論文ワークショップの開始
- ・他キャンパスでの英語論文相談を開始
- ・英語論文リトリートの開始
- ・フェロー（アメリカ人）の雇用

大学の方針によって図書館長がセンター長（兼任）となり、図書館がセンターの管理・運営を担当することになった。それではなぜ、図書館がセンターの運営・管理を担当することになったのであろうか？図書館長がセンターの設置を検討するWGの座長であったことは大きな要因であるが、その他の理由としては、図書館という場所が、学生が集まる場所として適していたこと、情報関係の授業や講習会でレポートの書き方などの学習支援活動を行っていたこと、予算も人的な支援もな

い中で、図書館ならセンターの運営ができると大学側が判断したのではないかと推測する。

4. ライティング相談による学習支援

4.1 ライティング相談の概要

ライティング相談は利用者がチューターと一対一で相談することにより、学術文章を書くための専門的なサポートを受けることができるサービスである。対象となる文章は、授業課題やレポートから博士論文、投稿論文までの学術文章である。ただし、英語文章は投稿論文を対象としておらず、英語論文作成相談で対応している。利用可能時間は授業期平日の10:30から17:50までで、1回の相談時間は40分である。平成29年8月現在で14名のチューターが在籍しており、各時間帯で1～3名が勤務している。ライティング相談は広島大学の構成員であればだれでも無料で利用できる。

ライティング相談は、ライティング支援に特化したサービスである。そのため、レポートから論文までの幅広い文章を対象とし、相談を受けるチューターは、ライティング支援を行うためのトレーニングを受けている。また、ライティング相談はそれぞれの分野の違いに関わらず、文章の分かりやすさや論理的なつながり、文章構成などを中心に検討するため、利用者の専門分野に応じてチューターが対応するのではなく、専門分野に関わらず、どのチューターもそれぞれの利用者に対応している。

この研修会の実施前に行ってもらったアンケートによると、「ライティングセンターと聞いて何をイメージしますか？」という項目では、「レポートや論文の添削、指導を行う場所」という回答が多くあった。しかし、センターは、文章を書く力が付くように支援するところであり、利用者が書いた文章をチューターが直すのではなく、利用者が自立して文章を書くことができるように支援することを目指している。そのためのライティング相談の基本方針を以下に示す。

- ・チューターは利用者と一緒にプレストや文章の検討を行い、より分かりやすい文章の作

成を目指す。

- ・チューターは対話を通じて利用者の意図や思考を引き出す。
- ・チューターによる文章の修正や添削、校正は行わない。

センターでは来訪しての対面での相談に加えて、オンラインでの相談も行っている。これは、センターがある東広島キャンパス以外に在籍する学生や、働きながら学部や大学院に通っている社会人学生などへサービスを拡大するためである。当初は他キャンパスへサービスを拡大するにあたり、チューターの派遣も検討したが、地理的、時間的な制約があり、断念した。その代わりに、Skypeを使ったオンラインでの相談を行うことにした。オンラインでの相談は、音声トラブルや利用者の顔が見えにくいといったオンライン特有の難しさはあるが、導入の費用はそれほどかからず、チューターの増員も不要であるため、遠隔地へのサービス拡大には有効な方法である。

4.2 チューターの養成

ライティング相談を行う学生チューターには、学術文章の書き方の知識、学術文章の執筆経験、学術文章の診断技能、対話によって相手の意図や思考を引き出す技能などの様々な知識や技能が必要である。では、これらの専門的な知識や技能は図書館内部で継続的に学生に教えることができるだろうか？おそらく、多くの図書館ではかなり難しいのではないかと思われる。少なくとも、広島大学図書館ではこれらの知識や技能を学生に教えることは無理であった。それでは、ライティング支援のサービスを学生が行う場合、どのようにしてこれらの知識や技能を教えて、チューターの養成を行えばよいのだろうか？

広島大学ライティングセンターでは、他部署との協力とチューター自身による研修の実施によってチューターの養成を行っている。チューター養成の一般的な流れは図2のとおりである。

広島大学では、教育学研究科の教員を中心にして大学院授業「学術文章の書き方とその指導法」

が開講されている。この授業はライティングセンターのチューター養成を兼ねた授業となっており、すべての大学院生が受講可能である。この授業では、論文の構成要素や実践的日本語文法の講義、チュータリングの観察や実施などを行い、アカデミックライティングの知識や論文の書き方、他の人が書いた学術文章の読み方やアドバイス方法などを学ぶ。この授業を受講し、単位を取得することが、日本語文章を担当するチューターの応募要件となっている。

チューターの養成



図2 チューター養成の流れ

チューターの募集は大学院生を対象として公募を行う。TAとして採用するため、学内のTA研修を受講していることが条件となる。また、先に述べたように日本語文章担当のチューターは「学術文章の書き方とその指導法」の授業を、英語文章担当のチューターは英語のAcademic Writingに関する授業の単位を取得することも条件としている。センターでは提出された研究計画書や論文などの学術文章と面接などにより、採用の可否を決定する。

採用されたチューターは新人研修とOn the Job Training (OJT)を行う。新人研修は現役のチューターが講師を担当し、1日半から2日程度の講義と実習を行う。この研修はライティング相談の流れを理解し、相談の時に必要となる技能を習得することを主な目的としている。研修の内容は、ライティングセンターの理念とセッションの流れ（講義）、模擬セッション（実習）、文章の構成・診断・文法（講義）、Skype模擬セッション（実習）

などである。OJTでは、新人のチューターは先輩チューターが行うライティング相談の見学を3回行い、その後に先輩チューターについてもらい、自分がライティング相談を3回実施する。どちらも相談終了後に先輩チューターと振り返りを行う。新人研修とOJTを終了したら、各自が研修の振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。ここまでの研修がすべて終了したら、自分1人で利用者との相談業務を行うことができる。

また、ライティング相談実施期間中には、チューター全員が集まるミーティングを毎週行っている。その中で各チューターが交代で1回30分程度の研修を行い、チューターとしてのスキルアップに努めている。研修のテーマはチューター自身が決定しており、文章診断、論文やレポートに関する課題などについて議論している。

4.3 図書館の役割

ライティング相談業務において、図書館はチューターの採用、勤務管理、WRCシステムの管理、環境整備、情報共有手段の整備、広報などを担当している。WRCシステムはライティングセンターの運営に特化したシステムで、平成27年度に広島大学が株式会社 ENU Technologies に構築を依頼した。WRCシステムはライティングセンターを運用するために必要となる、学生の勤務・シフト管理、相談枠の管理、予約管理、相談の記録、利用統計などの機能が備わっている。当初は、これらの業務は手動で行っていたため、その処理に多くの労力と時間がかかっていた。特に、予約管理は予約確認と利用者への返信を手動で行っていたため、サービスが拡大し、利用が増加するにつれて、担当職員に多くの負担が生じていた。しかし、このWRCシステムを導入することで、業務のかなりの部分が効率化され、担当職員及びチューターともに大幅な労力と時間を削減することができた。

環境整備とは、ライティング相談を行う上で必要となる適切な場所の準備、電話やネットワーク、WiFiの設定、机、いす、ホワイトボード、パソコン、コピー機などの什器や備品などの準備、

記録シートの保管や廃棄、消耗品の管理などである。ライティング相談を行う場所は、声を出ことができ、利用者のプライバシーに配慮できるが、利用者とチューターが密室で二人きりにならず、外からある程度様子がうかがえることが必要となる。このような条件の場所を図書館内で確保することは、なかなか難しい。静寂な場所である閲覧スペースとの共存はできないし、かといって、ラーニング commons のようなオープンスペースでは利用者のプライバシーを確保するのは困難である。センターも2回の引っ越しを経て現在の場所に落ち着いた。

チューター同士、あるいはチューターと教職員との情報共有も重要事項の1つである。チューターはシフト勤務のため、通常の勤務内での情報共有が難しい。しかし、相談内容の引継ぎや課題対応など、情報共有の必要性は高い。そのため、センターではチューター全員が参加する毎週のミーティング、オンライン授業システムを使った掲示板での意見交換やファイル共有、連絡用のメーリングリストなどにより、効率的な情報共有を行っている。

利用者向けの広報は、ポスターやチラシでの案内、ウェブサイトの作成、学生向けポータルサイトでのお知らせ掲示、大学広報誌への記事掲載、図書館新入生ガイダンスや留学生オリエンテーションでのセンター紹介、授業との連携などを行っている。センター設置当初は「ライティングセンター」という言葉を聞いたことがない人がほとんどであったため、ポスターを目立つところに掲示したり、チラシを配布したりして、ライティングセンターを認知してもらうことに努めた。その後は新入生をターゲットとしたガイダンスや留学生を対象としたオリエンテーションでの紹介を行い、より多くの学生にセンターのサービスを理解してもらうための広報を行っている。また、多くの学生が受講しており、レポート課題がある教養科目授業で、教員からセンターの案内をしてもらい、レポートの書き方が分からない新入生の利用を積極的に進めている。平成28年度の利用者アンケートで初回利用者にセンターをどこで知った

かを尋ねたところ、35%が知人や友人、22%がガイダンスやオリエンテーション、18%が教員となっている。

WRCをどこで知りましたか？

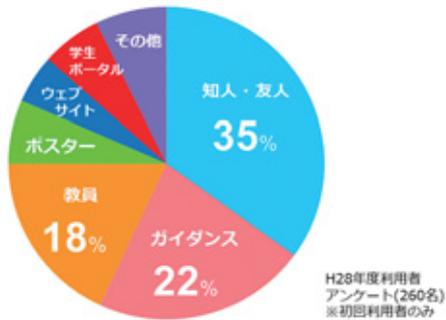


図3 センターを知ったきっかけ

4.4 ライティング相談の利用状況

日本語のライティング相談は平成25年度に開始した。相談件数は、平成25年度には200件弱であったが、毎年増加して、平成28年度は1,299件となった。平成28年度の日本語ライティング相談の利用者の内訳は、修士課程の大学院生が40%と最も高く、博士課程の大学院生が23%、学部生が22%となっている。相談された文章の種類は修士論文が25%、レポートや授業課題が24%、授業のレジュメなどの発表資料が19%と比較的高く、そのほか、研究計画書が11%、投稿論文が9%となっている。

利用件数（日本語）

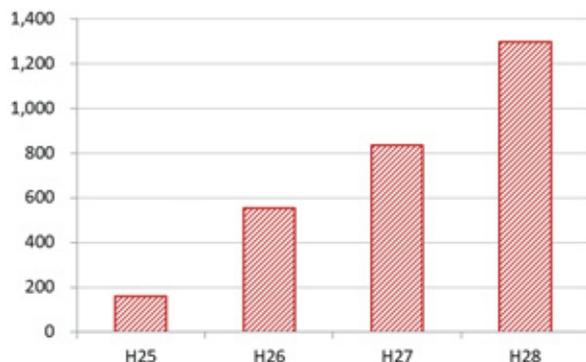


図4 日本語ライティング相談件数

また、センターの利用者の特徴として留学生の割合が多いことがあげられる。平成26年度と27年度も約50%と利用者の半数が留学生であったが、平成28年度には70%に増加し、かなり高い割合となった。これは、日本語で授業の発表資料や修士論文などを作成する留学生が、日本語表現を確認するためにセンターを利用していること、さらに、修士論文などの分量が多い文章では、一度の相談では終わらないため、リピーターが増加していることが要因として考えられる。

そのため、センターでは、チューターが日本語文法の理論に基づく説明を心掛けたり、留学生用のチェックシートを作成して、文法や文章表現で間違いやすいポイントを留学生が自分自身で確認できるようにしたりといったように、留学生の文章相談が単なる日本語のチェックにならないような工夫をしている。

留学生の割合（日本語）

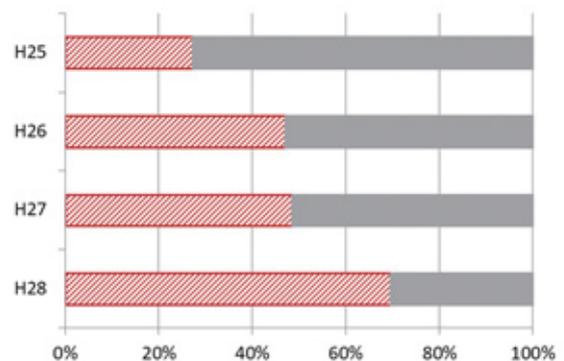


図5 利用件数に占める留学生の割合

ライティング相談の利用者を対象としたアンケートでは、回答者（824名）の84%が文章の気づきやヒントを大いに得られた、15%が文章の気づきやヒントを得られたと回答しており、とても高い満足度となっている。センターの利用者からは、「伝えたい内容をはっきり整理することができた」「問いと答えに一貫性を持たせることの大切さを学ぶことができた」「主張を支持する根拠を明確にする方法を大いに学ぶことができた」「構成の大切さに気付かせてもらった」「自分が書いた文章が、いつもつながりがないと言われた理由が分

かった」などの意見が寄せられている。

これらの利用状況から考えると、ライティング支援サービスは利用者の認知度が高まるにつれて利用が高くなる傾向にあるといえる。その理由として、利用者の満足度が高く、リピーターが多いこと、また友人や知人などの口コミを通じて利用が促進されることがあげられる。また、口コミでの広がりを除くと、ガイダンスや授業といったオフィシャルな場での紹介や案内が有効である。

5. 大学図書館とライティング支援

広島大学で行っているような学生のチューターを活用したライティング支援を大学が導入するには、学内関連部署の連携、チューター養成システムの確立、意欲と能力がある学生チューターの確保、運営管理ノウハウの共有といった色々な要素が必要となる。

もし、ライティング支援が全国の大学に広がっていく可能性があるとするならば、図書館の関与は不可欠であろう。なぜなら、図書館にはもともと、東海地区大学図書館協議会のような色々な横のつながり（コミュニティ）があり、発表、研修の場が多く設けられ、各図書館がベストプラクティスを取り入れようとする姿勢がある。そのため、図書館は横のつながりを生かして、学外の資源を活用したチューター養成のしくみや運営管理ノウハウの共有などをより有効に活用することができ、多くの大学がそのノウハウを生かして、自大学の状況に応じて柔軟に取り入れることができる。それが、図書館がライティング支援を行う大きな優位性である。

およそ10年前に機関リポジトリが日本の大学にもたらされ、研究成果の発信という今までにない新しい機能（仕事）を大学図書館に付与した。そして、機関リポジトリのコミュニティが全国規模で広がり、現在では全国の大学に機関リポジトリが定着して、図書館がイニシアチブを取って大学内の研究成果の発信を進めている。それにより、大学図書館は今まで行っていた学術情報の利用支援に加えて、発信も支援することになった。

ライティング支援も機関リポジトリと同じよう

に、大学図書館のコミュニティを通じて広がり、大学図書館は学術情報の利用と発信の支援に加えて、さらに学術情報の生産を支援することができるようになる。ライティング支援は、図書館が行うかどうかは関係なく、大学として必要とされるサービスの1つであると最初に述べた。ただ、全国の大学がライティング支援を導入するためには、情報収集やノウハウの共有にたける図書館が関与することが効率的であり、効果的である。

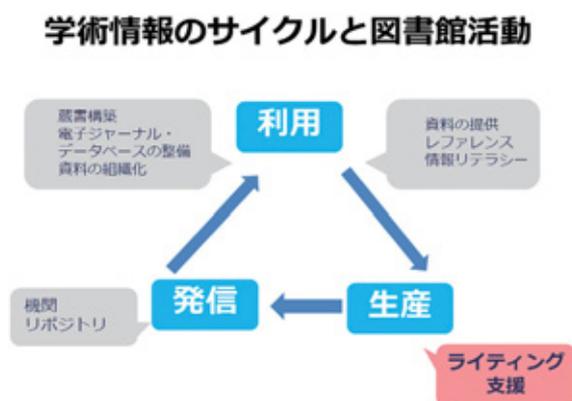


図6 学術情報のサイクルと図書館活動

広島大学図書館がライティングセンターを設置して、ライティング支援を開始したことは、より直接的に学習・研究の支援ができる、図書館の存在感が学内で高まるなどのメリットがあった。私自身もアカデミックライティングの奥深さを知ることができ、まったくノウハウがない分野での新しいチャレンジは、大変なことは多かったが、よい経験となった。

広島大学図書館でのライティング支援も、はじめは「お金がない」「人がいない」「ノウハウがない」中での未知への挑戦であった。チューター養成や運営管理のノウハウがある程度蓄積した今、より多くの大学図書館がライティング支援に興味を持ち、広島大学図書館と同じように新たな挑戦への一歩を踏み出してほしいと願っている。

参考文献

- 1) 井下千以子．大学における書く力考える力：
認知心理学の知見をもとに．東信堂．2008,
260p.
- 2) 山田礼子．学士課程教育の質保証へむけて：
学生調査と初年次教育からみえてきたもの．
東信堂．2012, 273p.
- 3) 渡辺哲司．大学への文章学：コミュニケー
ション手段としてのレポート・小論文．学術
出版会．2013, 181p.

行 事

第 71 回 (2017 年度) 東海地区大学図書館協議会 総会・研究集会

【総会の部】

日 時：平成 29 年 8 月 22 日 (火) 10:45 ~ 16:10
 会 場：豊橋技術科学大学附属図書館 マルチプラザ
 総会当番館：豊橋技術科学大学附属図書館
 出 席 者：53 館 75 名

図 書 館 名		職 名
<input type="checkbox"/> ■ 岐阜県 ■ <input type="checkbox"/>		
1	朝日大学図書館	主任
2	岐阜大学図書館	情報部 学術情報課長
		情報部 学術情報課長補佐
3	岐阜医療科学大学図書館	司書
4	岐阜経済大学図書館	事務長
5	岐阜市立女子短期大学附属図書館	嘱託職員
6	岐阜薬科大学附属図書館	教授・附属図書館長兼任
7	情報科学芸術大学院大学附属図書館	司書
8	東海学院大学・東海学院大学短期大学部附属図書館	課長
<input type="checkbox"/> ■ 静岡県 ■ <input type="checkbox"/>		
9	静岡大学附属図書館	学術情報部長
		図書館情報課雑誌情報係員
10	静岡県立大学附属図書館	事務長
11	静岡産業大学図書館	磐田事務局 図書館課 主任
12	静岡理工科大学附属図書館	図書課長
13	東海大学付属図書館清水図書館	係長
14	東海大学短期大学部図書館	図書館長
15	常葉大学附属図書館	司書
16	浜松医科大学附属図書館	学術情報課長
<input type="checkbox"/> ■ 愛知県 ■ <input type="checkbox"/>		
17	愛知大学図書館	図書館長
		名古屋図書館課長
		豊橋図書館課長
		豊橋図書館係長
		豊橋図書館主幹
18	愛知医科大学総合学術情報センター	司書

図 書 館 名		職 名
19	愛知学院大学図書館情報センター	事務職員
20	愛知教育大学附属図書館	附属図書館長
		情報図書課長
21	愛知県立大学学術研究情報センター図書館	図書情報課長
		学術情報課長
22	愛知県立芸術大学芸術情報センター図書館	図書情報係長
23	愛知工業大学附属図書館	課長
24	愛知淑徳大学図書館	事務主任
25	愛知東邦大学学術情報センター	学術情報課 課員
26	桜花学園大学図書館	図書課長
27	名古屋短期大学図書館	
28	金城学院大学図書館	課員
29	自然科学研究機構岡崎情報図書館	総務課専門員
30	修文大学附属図書館	司書
		司書
31	椋山女学園大学図書館	図書館課員
32	瀬木学園図書館	図書室長取扱
33	中京大学図書館	部長
34	中部大学附属三浦記念図書館	図書館事務部長
		図書課長
35	同朋大学・名古屋音楽大学属図書館	課長補佐
36	東海学園大学図書館	主査
37	豊橋創造大学附属図書館	事務職員
38	名古屋大学附属図書館	館長
		事務部長
		情報管理課 課長
		情報管理課 課長補佐
39	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学図書館	課長
40	名古屋学院大学学術情報センター	課長
		嘱託職員
41	名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部図書館	主査
42	名古屋芸術大学附属図書館	東キャンパス室長
43	名古屋工業大学附属図書館	課長
44	名古屋女子大学学術情報センター	センター長補佐
45	名古屋市立大学総合情報センター	司書
46	南山大学図書館	課長

図 書 館 名		職 名
47	日本福祉大学附属図書館	事務職員
48	藤田学園医学・保健衛生学図書館	課長
		主任
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 三重県 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
49	皇學館大学附属図書館	事務嘱託
50	三重大学附属図書館	学術情報部 情報・図書館課長
51	三重県立看護大学 メディアコミュニケーションセンター附属図書館	企画総務課主幹
52	津市立三重短期大学附属図書館	館長
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 当番館 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>		
53	豊橋技術科学大学附属図書館	附属図書館長
		情報・図書室長
		係長
		係長
		主任
		主任
		主任
		非常勤職員
		非常勤職員

総 会 議 事 要 録

I 開会

II 挨拶

豊橋技術科学大学長 大西 隆
東海地区大学図書館協議会長 森 仁志

III 議長選出

豊橋技術科学大学附属図書館長 大貝 彰

IV 報告事項

1 国公立の各大学図書館の活動状況、当面の課題等について

国公立の各協議会の理事校・幹事校（名古屋大学、愛知県立大学、愛知大学）から報告があった。

2 その他

報告事項無し

V 協議事項

1 平成 28 年度事業報告（案）について

事務局から平成 28 年度の事業について次のとおり報告があった。

(1) 第 70 回（2016 年度）総会

日時：平成 28 年 8 月 5 日（金）
会場：名古屋学院大学クラインホール
総会当番館：名古屋学院大学
(51 大学 89 名参加)

1) 報告事項

国公立の各大学図書館の活動状況、当面の課題等について（名古屋大学、愛知県立大学、名古屋学院大学）

2) 協議事項

平成 27 年度事業報告、平成 27 年度決算報告、東海地区大学図書館協議会の研修について、平成 28 年度役員館について、平成 28 年度事業計画（案）及び予算（案）について、平成 29 年度図書館職員基礎研修分担金の徴収について、平成 29 年度総会

当番館について、永年勤続者表彰（7 名）

(2) 研究集会

日時：平成 28 年 8 月 5 日（金）

テーマ：

「大学図書館 100 連発：フツの大学図書館でもできる「小さな工夫」「良い事例」を学びあう」

講演：

「図書館 100 連発－大学図書館でも明日からできる小さな工夫」

アカデミック・リソース・ガイド株式会社
代表取締役 岡本 真

ポスターセッション・表彰式

(3) 研修会

1) 研修会（第 1 回）

日時：平成 28 年 11 月 22 日（火）

会場：名古屋大学附属図書館

研修担当館：名古屋大学附属図書館

(22 大学・機関 47 名参加)

テーマ：「無銭綴じ資料の補修」

講演（実習含む）：

特定非営利活動法人書物の歴史と保存修復に関する研究会 板倉 正子

2) 研修会（第 2 回）

日時：平成 29 年 2 月 6 日（月）

会場：名古屋工業大学ラーニング・コモンズ

LI:NCs

研修担当館：名古屋工業大学附属図書館

(14 大学・機関 48 名参加)

テーマ：「古典籍の基礎知識」

講演：

「洋古典籍はどんな姿をしているのか」

元跡見学園女子大学教授 高野 彰

「水田文庫整理にたずさわって」

元名古屋大学附属図書館研究開発室研究員

中井えり子

「古典籍書誌DBのすすめ」

名古屋大学大学院文学研究科教授

塩村 耕

(4) 「東海地区大学図書館協議会誌」61 号

平成 28 年 12 月 26 日（月）発行

(5) 運営委員会

- 1) 監事会（平成 28 年度、平成 28 年 6 月 6 日（火）会場：名古屋大学）
監事館：愛知県立芸術大学、中部大学
- 2) 機関誌編集委員会（平成 28 年度、平成 28 年 5 月 29 日（月）電子メールによる審議）
- 3) 運営委員会（平成 28 年度、平成 28 年 5 月 12 日（金）電子メールによる審議
6 月 15 日（木）会場：名古屋大学）

2 平成 28 年度決算報告（案）について

事務局から、平成 28 年度の決算について報告があり、続いて、監事館を代表して愛知県立芸術大学から、監査の結果、経理は正確に処理されていることを確認したとの報告があった。

平成 28 年度の決算報告について、報告のとおり承認された。

3 平成 29 年度事業計画（案）および予算（案）について

事務局から、平成 29 年度事業計画（案）および予算（案）について説明があり、提案どおり承認された。

4 平成 30 年度総会当番館について

第 72 回（平成 30 年度）総会・研究集会の当番館として愛知大学が選出された。

VI 永年勤続者表彰

事務局から平成 29 度永年勤続者 14 名の紹介があった。

永年勤続表彰者：

- | | | |
|----|-----|-----------|
| 村瀬 | 由紀子 | （朝日大学） |
| 小林 | 晴子 | （愛知医科大学） |
| 浅井 | 伸夫 | （愛知医科大学） |
| 榊原 | 佐知子 | （愛知医科大学） |
| 白井 | 勇次 | （愛知県立大学） |
| 水谷 | 庸子 | （東海学園大学） |
| 榎本 | 涼子 | （名古屋市立大学） |
| 木下 | 聡 | （名古屋大学） |
| 久納 | 優希 | （名古屋大学） |
| 小島 | 由香 | （名古屋大学） |
| 澤口 | 由好 | （名古屋大学） |
| 澤田 | さとみ | （名古屋大学） |

竹谷 喜美江（名古屋大学）

萩 誠一（名古屋大学）

VII 閉会

【研究集会】

日時：平成 29 年 8 月 22 日（火）13：20～16：10

会場：豊橋技術科学大学附属図書館

マルチプラザ

テーマ：「知の創出：新たな知を紡ぐ〈場〉の提供」

◇講演：「書く力を磨く！ライティングセンター」

－広島大学図書館の挑戦－

広島大学図書館・ライティングセンター

上田 大輔



◇図書館見学



◇事前アンケートによる質疑応答



平成 28 年度決算報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

科 目	予算額 a	決算額 b	過△不足額 b - a	備 考
収入の部	円	円	円	
1. 前年度繰越金	2,028,413	2,028,413	0	
2. 会 費	705,500	705,500	0	平成 28 年度分：@8,500 × 83 館 = 705,500
3. 会 誌 売 上	74,500	72,500	-2,000	61 号分：@2,500 × 29 部 = 72,500
4. 分 担 金	0	0	0	北陸 4 国立大学からの基礎研修分担金
5. 雑 収 入	335,000	345,000	10,000	協議会誌広告掲載料 (60 号) @10,000 × 1 社 = 10,000 協議会誌広告掲載料 (61 号) 335,000 @30,000 × 1 社 = 30,000 @25,000 × 1 社 = 25,000 @20,000 × 11 社 = 220,000 @10,000 × 6 社 = 60,000
6. 預 金 利 息	10	17	7	
計	3,143,423	3,151,430	8,007	

* 前年度繰越金を除く平成 28 年度の収入額 1,123,017 円

科 目	予算額 c	決算額 d	過△不足額 c - d	備 考
支出の部	円	円	円	
1. 総会補助金	100,000	100,000	0	第 70 回総会 (名古屋学院大学)
2. 研究集会費	100,000	58,432	41,568	講演料 (1 名)
3. 研修会費	300,000	190,366	109,634	研修会講師謝金等、会場館補助金
5. 会誌刊行費	480,000	402,192	77,808	61 号 190 部
6. 役員会経費	5,000	3,844	1,156	運営委員会、監事会
7. 事務費	50,000	64,514	△ 14,514	テーブル起こし、振込手数料等
8. 通信費	40,000	29,304	10,696	会誌送付等郵便料金
9. 表彰記念費	45,000	40,898	4,102	表彰記念品 (ネーム印付きボールペン 8 本、表彰状ファイル)
10. 予備費	2,023,423	0	2,023,423	
11. 次年度繰越金	0	2,261,880	△ 2,261,880	
計	3,143,423	3,151,430	△ 8,007	

* 次年度繰越金を除く平成 28 年度の支出額 889,550 円

平成 29 年 3 月 31 日締め
 預金残高 2,259,155 円
 現金残高 2,725 円
 資産総額 2,261,880 円

会計監査 平成 28 年 6 月 6 日

愛知県立芸術大学
 中部大学

監査済み

平成 29 年度予算

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

科 目	前年度 決算額 a	本年度 予算額 b	前年度決算額 よりの増△減 b - a	備 考
収入の部	円	円	円	
1. 前年度繰越金	2,028,413	2,261,880	233,467	
2. 会 費	705,500	705,500	0	平成 29 年度分：@8,500 × 83 館 = 705,500
3. 会誌売上費	72,500	72,500	0	62 号分：@2,500 × 29 部 = 72,500
4. 分 担 金	0	0	0	基礎研修開催年度に限り北陸地区国立大学から徴収するが、少額のため平成 31 年度に徴収（第 70 回総会決定）
5. 雑 収 入	345,000	335,000	△ 10,000	協議会誌広告掲載料 62 号分
6. 預 金 利 息	17	17	0	金利の低下
計	3,151,430	3,374,897	223,467	

* 前年度繰越金を除く本年度の収入見込み額 1,113,017 円

科 目	前年度 決算額 c	本年度 予算額 d	前年度決算額 よりの増△減 d - c	備 考
支出の部	円	円	円	
1. 総会補助金	100,000	100,000	0	第 71 回総会（豊橋技術科学大学）
2. 研究集会費	58,432	100,000	41,568	講師（1 名）（加盟館外）謝金等
3. 研修会費	190,366	250,000	59,634	当番館経費（名古屋大学）、講師謝金等
4. 会誌刊行費	402,192	480,000	77,808	62 号 190 部
5. 役員会経費	3,844	5,000	1,156	運営委員会、監事会
6. 事務費	64,514	120,000	55,486	IC レコーダ等の事務用品等
7. 通信費	29,304	40,000	10,696	会誌送付等郵便料金
8. 表彰記念費	40,898	100,000	59,102	永年勤続表彰者の記念品（ネーム印付きボールペン）、旅費（事務局を除く）等
9. 予 備 費	0	2,179,897	2,179,897	
10. 次年度繰越金	2,261,880	0	△ 2,261,880	
計	3,151,430	3,374,897	223,467	

* 予備費を除く本年度の支出見込み額 1,195,000 円

施設紹介

豊橋技術科学大学附属図書館

〒 441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘 1-1

<https://www.lib.tut.ac.jp/>

豊橋技術科学大学附属図書館は、開学から40年、アカデミックゾーンのほぼ中央、講義を終えた多くの学生や教職員が行き交う中庭を挟んだ位置的特性を活かして、パブリックスペースを含めた図書館を「多文化共生・グローバルキャンパス」の中心的役割を担う施設として改修を始め、今年4月にマルチプラザ (active learning space) を備えた新しい図書館に生まれ変わりました。



パブリックスペース

図書館前のパブリックスペースにはイベント会場のような大きなテントを張り、1階には、コラボレーションエリア、スタディサポートエリア、グローバルレクチャーエリアを配したマルチプラザが広がります。学生は、好きな時間に好きなスタイルで、個人勉強や友人とワイワイ会話を楽しむ



1階 マルチプラザ



1階 図書カフェ

場として、24時間いつでも利用できます。気分を変えコーヒーを飲みながらリフレッシュ！ということで、マルチプラザをドリンクOKエリアとし、図書カフェをオープンしました。

2階は、低層書架に統一、本に囲まれながらグループで静かに勉強できるように4人掛けのテーブルを配置しました。3階は、一人で集中して勉強できるように出席や個人スペースを十分に確保した窓際席を配置しました。



3階 個人用閲覧スペース

今回の改修に際し、いろいろな大学の図書館を見学し、什器類の選定など参考にさせていただきました。愛知学院大学、名古屋学院大学、岐阜大学、静岡大学、名古屋大学、三重大大学の皆様、ありがとうございました。

施設紹介

名古屋工業大学附属図書館ラーニング・コモンズ LI:NCs (リンクス)

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

<http://www.lib.nitech.ac.jp>

名古屋工業大学附属図書館は、隣接する講堂 (NITech Hall) の2階にラーニング・コモンズを新設しました。本学の講堂は、老朽化のため改築が必要な状態でした。また、本学創立111周年を機に、従来の講堂機能に加えて、学生が主体的に学ぶ学習環境、産業界と連携した能動的学習環境、並びに地域住民・地域企業・大学との知の交流拠点を提供する施設としても整備されることとなりました。補助金と学内基金にて予算が措置され、平成27年10月に着工し、28年9月に竣工、運用を開始しました。

講堂 (NITech Hall) は、2階建て総床面積約1670平方メートルで、1階の多目的ホール (426名収容)、2階のラーニング・コモンズからなります。ラーニング・コモンズは、多人数の授業でも利用可能なアクティブ・ラーニングエリアを中心に、多様な学習スタイルに対応するスペースを備え、プロジェクタ、マイク、サイネージ、床下電源、無線LAN等の設備を提供しています。また、学習に必要な資料を利用しやすいように、図書館2階と連絡通路で繋がっており、学習相談を受けることができるカウンターも設置しています。

<主なエリアの紹介>

①アクティブ・ラーニングエリア 120席

授業でもグループ学習でも、人数に合わせて柔軟に配置可能な机・椅子・ホワイトボードを提供。

②プレゼンエリア 12席

インタラクティブ・プロジェクタやホワイトボードが利用でき、ロールスクリーンで仕切り、発表練習にも利用可能なエリア。

③ソーシャルエリア

自由に組み合わせて利用できる量のツール、

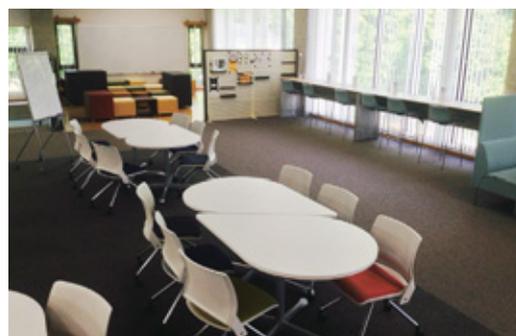
背もたれ、袖机があり、壁面ホワイトボードやスチール掲示板等で情報交換ができるエリア。

その他、ファミレス風のブース席、見晴らしのよいカウンター席、学内教育用端末が使用できるPCエリア等を備えます。



<学生協働>

ラーニング・コモンズの愛称は学内公募し、公開イベントで、Learning Innovation : NITech Commons から、LI:NCs (リンクス) と決定しました。愛称公募の他にも、計画・設置の過程で、学生参加・学生協働を実施し、フロア計画ワークショップの開催、サイン・カラーデザイン、ロゴデザイン、ソーシャルエリアのデザイン、フロアガイドの制作等において、学生・教員の協力を得て、LI:NCs は完成しました。



ラーニング・コモンズ LI:NCs (リンクス)

会 則 等

東海地区大学図書館協議会会則

(名 称)

第1条 本会は、東海地区大学図書館協議会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、東海地区大学図書館の発展を図ると共に、図書館員の教養と技術の向上及び相互の親睦をはかることを目的とする。

(会 員)

第3条 本会は、前条の目的に賛同する東海地区（静岡、愛知、岐阜、三重）の国立、公立、私立の大学図書館その他これに準ずる図書館を以て組織する。

(事 業)

第4条 本会は、第2条の目的を達するために、次の事業を行う。

- 一 会員相互間の連絡提携
- 二 図書及び図書館に関する研究会、講習会、
展示会等の開催並びに後援
- 三 図書館運営に関する相談、指導
- 四 機関誌の発行
- 五 その他必要と認める事業

(会 長)

第5条 本会に会長を置く。

2 総会において会長館を選出し、その会長館の図書館長が会長となる。

3 会長の任期は、2年とする。但し、重任を妨げない。

(委員会)

第6条 本会に運営委員会及び機関誌編集委員会を置く。

2 委員会に関する事項は、別に定める。

(総 会)

第7条 会長は、毎年一回総会を招集する。

2 会場は、加盟館の輪番とする。

第8条 会長館は、協議事項（議題及び承合事項）をとりまとめ、審議運行の手続きを計る。

第9条 総会の票決権は、一館一票とし議決は出席館の過半数の賛成を要する。

(会 計)

第10条 本会の経費は、会費その他の収入をもってあてる。

2 会員の会費は、年額8,500円とする。

第11条 本会の会計事務を監査するため、監事を置く。

2 総会において監事館を選出し、その監事館の図書館長が監事となる。

3 監事の任期は2年とする。但し、重任を妨げない。

第12条 本会の予算は、毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受けたのち、次の総会において承認を得るものとする。

第13条 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

(事務局)

第14条 会長館に、本会の事務局を置く。

2 事務局に、事務局長及び職員を置く。

3 会長館の事務部長、又はこれに準ずる者が事務局長となる。

(会則の変更)

第15条 この会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

(附 則)

本会則は、昭和25年5月1日から施行する。

(附 則)

この改正は、昭和50年7月23日より施行する。

(附 則)

この改正は、平成27年8月21日より施行する。

東海地区大学図書館協議会

運営委員会規程

第1条 運営委員会は、本会の運営に関する事項を審議する。

第2条 運営委員会の構成は、国立大3、公立大3、私立大4、(短大1を含む)とする。

第3条 運営委員は、総会において選出する。

2 運営委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 前項の任期が満了しても、後任者が就任するまでは、なお、その任にあるものとする。

第4条 運営委員会に、委員長をおく。

2 運営委員長は、会長がこれに当たる。

3 運営委員長は、必要に応じ委員会を招集することができる。

第5条 運営委員会に、必要に応じて小委員会を置くことができる。

第6条 運営委員会の事務は、事務局内において行う。

附 則

この改正は平成12年7月19日から施行する。

東海地区大学図書館協議会

機関誌編集委員会規程

1 機関誌の発行について、編集委員会を設ける。

2 編集委員は、会長の指名による。

3 編集委員会に、委員長を置く。

4 編集委員長は、会長がこれにあたる。

5 編集委員長は、必要に応じ委員会を招集することができる。

6 編集委員会の事務は、事務局内において行う。

東海地区大学図書館協議会

研修企画小委員会内規

平成12年10月6日

運営委員会

(目的)

第1 この内規は、東海地区大学図書館協議会(以下「協議会」という。)の研修に関し、必要な

事項を審議するため、運営委員会の下に研修企画小委員会(以下「小委員会」という。)を置き、必要な事項を定めることを目的とする。

(審議事項)

第2 小委員会は、次に掲げる事項を行う。

一 協議会が行う研修の企画に関すること

二 その他研修に関し、必要な事項

(小委員会の構成)

第3 小委員会は、次に掲げる委員館をもって構成する。

一 協議会会長館

二 国立、公立、私立の運営委員館から各1館

三 研修会会場館

2 小委員会に委員長館を置き、小委員会の互選による。

(小委員会の庶務)

第4 小委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

附 則

この内規は、平成12年10月6日から施行する。

東海地区大学図書館協議会

ホームページ小委員会内規

平成12年10月6日

運営委員会

(目的)

第1 この内規は、東海地区大学図書館協議会(以下「協議会」という。)のホームページ(以下「ホームページ」という。)に関し、必要な事項を審議するため、運営委員会の下にホームページ小委員会(以下「小委員会」という。)を置き、必要な事項を定めることを目的とする。

(審議事項等)

第2 小委員会は、次に掲げる事項を行う。

一 ホームページの運用・管理に関すること。

二 ホームページの企画・編集に関すること。

三 その他ホームページに関し、必要な事項。

(小委員会の構成)

第3 小委員会は次に掲げる委員館をもって構成する。

- 一 協議会会長館
 - 二 国立、公立、私立の運営委員館から各1館
- 2 小委員会に委員長館を置き、小委員会の互選による。

(小委員会の庶務)

第4 小委員会の庶務は、協議会事務局において処理する。

附 則

この内規は、平成12年10月6日から施行する。

東海地区大学図書館協議会ホームページ による情報発信に関わる申し合わせ

平成12年10月6日
運営委員会

1 情報発信の範囲

ホームページを通じて発信する情報は、次の各号に該当するものとする。

- ①協議会事業に関する情報
- ②協議会加盟館に関する情報
- ③その他ホームページ小委員会（以下「小委員会」という。）が必要と認めた情報

2 情報発信できる者の範囲

ホームページを通じて情報発信できる者は協議会加盟館とする。

3 情報発信の手続き

- ①ホームページを通じて情報発信しようとする者は、協議会事務局宛にHTML形式の文書をメールで送付するものとする。
- ②加盟館から送付された文書の内容は原則として変更しない。
- ③ホームページに掲載する文書の登録及び削除の決定は、小委員会が行う。但し、疑義があるときは、小委員会は運営委員会委員長と協議する。
- ④ホームページを通じて情報公開している者で、公開する情報の変更又は停止等の事由が生じた時は、速やかに協議会事務局に連絡する。
- ⑤小委員会は公開されたホームページの情報が不適当と判断した場合は、そのファイルを削

除し、リンクを切断することができるものとする。

4 ホームページ

当分の間、ホームページは名古屋大学附属図書館内のサーバーに置く。

表彰規程

第1条 東海地区大学図書館協議会会則第4条第5号に基づき加盟館の職員に対して行う表彰はこの規程の定めるところによる。

第2条 毎年総会の前日までに通算20年図書館に在職する者。

第3条 この規程による表彰は加盟館長の推薦により総会において行う。

第4条 表彰者には記念品及び感謝状を贈呈する。

第5条 この規程の改正は総会の議決によって行う。

附 則

この規程は、昭和44年10月29日から実施する。

表彰者推薦に関する申合せ

(昭和53年9月4日)

東海地区大学図書館協議会の加盟館に在職する者のうち、つぎの各項のいずれかに該当する者を推薦することとする。

- (1) 毎年総会の前日までに通算20年以上加盟館に在職する者。
- (2) 毎年総会の前日までに通算25年以上図書館に在職し、かつ3年以上加盟館に在職する者。
なお、(1)、(2)のいずれについても事務補佐員としての在職期間も加算するものとする。

「図書館職員基礎研修」実施に関する 分担金についての申合せ

(平成27年8月21日)

「図書館職員基礎研修」(以下、「基礎研修」という。)については、平成25年度東海地区大学図

書館協議会総会において、東海北陸地区国立大学図書館協会と共催することを決定した。これに伴う分担金の取り扱いについて以下のとおり定める。

1. 東海北陸地区国立大学図書館協会加盟館のうち、北陸地区に所在する4大学（以下、「北陸地区4国立大学」という。）から、基礎研修実施年度に限り、分担金を徴収することとする。
2. 分担金の金額は、前回の基礎研修開催に要した経費を、東海地区大学図書館協議会加盟館及び北陸地区4国立大学の合計数で除した値を基礎にして、その都度東海地区大学図書館協議会運営委員会で定める。

総会当番館一覧

東海地区大学図書館協議会 総会当番館一覧

回	年月	館名	県別	回	年月	館名	県別
1	昭 25. 6	名古屋大学	愛知	38	59. 9	南山大学	愛知
2	26. 6	金城学院大学	〃	39	60.10	豊橋技術科学大学	〃
3	26.11	三重大学	三重	40	61. 6	中京大学	〃
4	27. 5	愛知学芸大学	愛知	41	62. 6	愛知県立大学	〃
5	27.10	名古屋工業大学	〃	42	63. 6	愛知学院大学	〃
6	28. 5	三重県立大学	三重	43	平成元 . 6	愛知教育大学	〃
7	28. 8	名古屋市立大学	愛知	44	2. 6	愛知大学	〃
8	29.10	静岡大学	静岡	45	3. 7	静岡県立大学	静岡
9	30. 9	岐阜大学	岐阜	46	4. 6	中部大学	愛知
10	31. 5	愛知大学	愛知	47	5. 6	岐阜大学	岐阜
11	32.10	日本大学 (三島)	静岡	48	6. 7	名古屋学院大学	愛知
12	33. 6	名城大学	愛知	49	7. 6	岐阜薬科大学	岐阜
13	34. 9	岐阜薬科大学	岐阜	50	8. 7	愛知大学	愛知
14	35.11	名古屋大学	愛知	51	9. 7	浜松医科大学	静岡
15	36.11	南山大学	〃	52	10. 7	日本福祉大学	愛知
16	37. 6	岐阜県立医科大学	岐阜	53	11. 7	愛知県立看護大学	〃
17	38. 6	名古屋工業大学	愛知	54	12. 7	愛知工業大学	〃
18	39.10	愛知県立大学	〃	55	13. 7	三重大学	三重
19	40.10	日本福祉大学	〃	56	14. 7	金城学院大学	愛知
20	41.10	中京大学	〃	57	15. 6	岐阜県立看護大学	岐阜
21	42.11	岐阜薬科大学	岐阜	58	16. 7	南山大学	愛知
22	43.11	愛知学院大学	愛知	59	17. 7	名古屋工業大学	〃
23	44.10	三重大学	三重	60	18. 7	名城大学	〃
24	45. 9	同朋大学	愛知	61	19. 8	愛知県立芸術大学	〃
25	46.10	名古屋市立大学	〃	62	20. 8	愛知淑徳大学	〃
26	47.10	中部工業大学	〃	63	21. 8	名古屋大学	〃
27	48.10	愛知教育大学	〃	64	22. 8	名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学	〃
28	49.10	大同工業大学	〃	65	23. 8	名古屋市立大学	〃
29	50. 7	愛知県立芸術大学	〃	66	24. 8	中京大学	〃
30	51. 6	市邨学園女子短期大学	〃	67	25. 8	静岡大学	静岡
31	52. 6	静岡大学	静岡	68	26. 8	中部大学	愛知
32	53. 9	愛知工業大学	愛知	69	27. 8	愛知県立大学	〃
33	54. 9	静岡女子大学	静岡	70	28. 8	名古屋学院大学	〃
34	55. 9	名古屋学院大学	愛知	71	29. 8	豊橋技術科学大学	〃
35	56.10	浜松医科大学	静岡	72	30. 8	愛知大学 (予定)	〃
36	57. 9	名古屋女子大学	愛知	73	31. 8	静岡文化芸術大学 (予定)	静岡
37	58.10	静岡薬科大学	静岡	74	32. 8	日本福祉大学 (予定)	愛知

国立→私立→公立→私立の順による

加盟館一覽

東海地区大学図書館協議会加盟館一覽

平成 29 年 12 月 1 日現在

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
(83)						
<input type="checkbox"/> ■ 岐阜県 ■ <input type="checkbox"/> (14)						
朝日大学図書館	学校法人 朝日大学	板谷 雄二	〒 501-0296	瑞穂市穂積 1851-1	(058)329-1051	(058)329-0021
岐阜大学図書館	国立大学法人	福士 秀人	〒 501-1193	岐阜市柳戸 1-1	(058)293-2184	(058)293-2194
岐阜医療科学大学 図書館	学校法人 神野学園	中村 浩二	〒 501-3892	関門市平賀字長峰 795-1	(0575)22-9401	(0575)46-9570
岐阜経済大学図書館	学校法人 大垣総合学園	高橋 利行	〒 503-8550	大垣市北方町 5-50	(0584)77-3527	(0584)77-3528
岐阜県立看護大学 図書館	公立大学法人 岐阜県立看護大学	会田 敬志	〒 501-6295	羽島市江吉良町 3047-1	(058)397-2304	(058)397-2304
岐阜市立女子短期大学 附属図書館		川上 新二	〒 501-0192	岐阜市一日市場北町 7-1	(058)296-3123	(058)296-3130
岐阜聖徳学園大学 図書館	学校法人 聖徳学園	小河 育恵	〒 501-6194	岐阜市柳津町高桑西 1-1	(058)279-6416	(058)279-1242
岐阜女子大学図書館	学校法人 杉山女子学園	生田 孝至	〒 501-2592	岐阜市太郎丸 80	(058)214-9317	(058)229-2222
岐阜保健短期大学 図書館	学校法人 豊田学園	森口 信子	〒 500-8281	岐阜市東鶉 2-92	(058)274-5001	(058)274-5260
岐阜薬科大学附属 図書館		伊藤 彰近	〒 502-8585	岐阜市三田洞東 5 丁目 6-1	(058)237-3931	(058)237-3631
情報科学芸術大学院 大学附属図書館		前田真二郎	〒 503-0006	大垣市加賀野 4-1-7	(0584)75-6803	(0584)75-6803
中京学院大学 図書メディアセンター	学校法人 安達学園	中村 恵子	〒 509-6192	瑞浪市土岐町 2216	(0572)68-4584	(0572)68-4568
中部学院大学 附属図書館	学校法人 岐阜済美学院	川瀬 邦臣	〒 501-3993	関市桐ヶ丘二丁目 1 番地	(0575)24-2243	(0575)24-2434
東海学院大学・東海学 院大学短期大学部附属 図書館	学校法人 神谷学園	アンドリュース デューア	〒 504-8511	各務原市那加桐野町 5-68	(058)389-2969	(058)371-9851
<input type="checkbox"/> ■ 静岡県 ■ <input type="checkbox"/> (12)						
静岡大学附属図書館	国立大学法人	澤田 均	〒 422-8529	静岡市駿河区大谷 836	(054)238-4474	(054)238-5408
静岡県立大学附属 図書館	静岡県公立 大学法人	小幡 壯	〒 422-8526	静岡市駿河区谷田 52-1	(054)264-5801	(054)264-5899
静岡県立大学短期大学部 附属図書館・静岡県立大 学附属図書館小鹿図書館	静岡県公立 大学法人	吉田 直樹 小幡 壯	〒 422-8021	静岡市駿河区小鹿 2-2-1	(054)202-2617	(054)202-2620
静岡産業大学図書館	学校法人 新静岡学園	浅羽 浩	〒 438-0043	磐田市大原 1572-1	(0538)36-8844	(0538)36-3580
静岡文化芸術大学 図書館・情報センター	公立大学法人 静岡文化芸術大学	宮田 圭介	〒 430-8533	浜松市中区中央二丁目 1 番 1 号	(053)457-6124	(053)457-6125
静岡理工科大学附属 図書館	学校法人 静岡理工科大学	常吉 俊宏	〒 437-8555	袋井市豊沢 2200-2	(0538)45-0231	(0538)45-0230
聖隷クリストファー 大学図書館	学校法人 聖隷学園	荒川 靖子	〒 433-8558	浜松市北区三方原町 3453	(053)439-1416	(053)414-1146
東海大学付属図書館 清水図書館	学校法人 東海大学	川崎 一平	〒 424-8610	静岡市清水区折戸 3-20-1	(054)334-0414	(054)334-0862

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
東海大学短期大学部 図書館	学校法人 東海大学	中上 健二	〒420-8511	静岡市葵区宮前町101	(054)261-9527	(054)261-6865
常葉大学附属図書館	学校法人 常葉学園	大川 信子	〒420-0911	静岡市葵区瀬名1-22-1	(054)261-4499	(054)263-1164
日本大学図書館国際 関係学部分館	学校法人 日本大学	濱屋 雅軌	〒411-8555	三島市文教町2丁目31-145	(055)980-0806	(055)988-7875
浜松医科大学附属 図書館	国立大学法人	浦野 哲盟	〒431-3192	浜松市東区半田山一丁目20-1	(053)435-2169	(053)435-5140

■ 愛知県 ■ (50)

愛知大学図書館	学校法人 愛知大学	西野 基継	〒453-8777	名古屋市市中村区平池町4丁目 60番6	(052)564-6115	(052)564-6215
愛知医科大学医学 情報センター (図書館)	学校法人 愛知医科大学	佐藤 啓二	〒480-1195	長久手市岩作雁又1-1	(0561)61-5402	(0561)62-3348
愛知学院大学図書館 情報センター	学校法人 愛知学院	二宮 克美	〒470-0195	日進市岩崎町阿良池12	(0561)73-1111 (代表)	(0561)73-7810
愛知学泉大学図書館	学校法人 安城学園	浦田 葉子	〒471-8532	豊田市大池町汐取1	(0565)35-7097	(0565)35-1003
愛知教育大学附属 図書館	国立大学法人	西宮 秀紀	〒448-8542	刈谷市井ヶ谷町広沢1	(0566)26-2683	(0566)26-2680
愛知県立大学学術研究 情報センター図書館	愛知県公立 大学法人	中島 茂	〒480-1198	長久手市茨ヶ廻間1522-3	(0561)76-8841	(0561)64-1104
愛知県立芸術大学芸術 情報センター図書館	愛知県公立 大学法人	松野 修	〒480-1194	長久手市岩作三ヶ峯1-114	(0561)76-2963	(0561)62-0244
愛知工科大学附属 図書館	学校法人 電波学園	村上 新	〒443-0047	蒲郡市西迫町馬乗50-2	(0533)68-1135	(0533)68-0352
愛知工業大学附属 図書館	学校法人 名古屋電気学園	吉賀 憲夫	〒470-0392	豊田市八草町八千草1247	(0565)48-8121	(0565)48-2908
愛知産業大学・短期大学 図書館	学校法人 愛知産業大学	須賀 周平	〒444-0005	岡崎市岡町字原山12-5	(0564)48-4591	(0564)48-5113
愛知淑徳大学図書館	学校法人 愛知淑徳学園	平林美都子	〒480-1197	長久手市片平2-9	(0561)62-4111 (代表)	(0561)64-0310
愛知東邦大学 学術情報センター	学校法人 東邦学園	高木 靖彦	〒465-8515	名古屋市名東区平和が丘3-11	(052)782-1243	(052)781-0931
愛知文教大学附属 図書館	学校法人 足立学園	富田 健弘	〒485-8565	小牧市大草5969-3	(0568)78-2211	(0568)78-2240
桜花学園大学図書館	学校法人 桜花学園	森田 優己	〒470-1193	豊明市栄町武侍48	(0562)97-1725	(0562)97-1703
金城学院大学図書館	学校法人 金城学院	出町 克人	〒463-8521	名古屋市守山区大森2-1723	(052)798-0180	(052)768-1066
至学館大学附属図書館	学校法人 至学館	百々 康治	〒474-8651	大府市横根町名高山55	(0562)46-1239	(0562)46-3860
自然科学研究機構 岡崎情報図書館	大学共同利用 機関法人	山本 正幸	〒444-8585	岡崎市明大寺町西郷中38	(0564)55-7191	(0564)55-7199
修文大学附属図書館	学校法人 修文学院	越川 卓	〒491-0938	一宮市日光町6番地	(0586)45-2101	(0586)45-4410
椋山女学園大学図書館	学校法人 椋山女学園	福永 智子	〒464-8662	名古屋市千種区星が丘元町17-3	(052)781-6452	(052)781-3094
星城大学図書館	学校法人 名古屋石田学園	雨宮 康樹	〒476-8588	東海市富貴ノ台2-172	(052)601-6000 (代表)	(052)601-6137
瀬木学園図書館	学校法人 瀬木学園	幸田 政次	〒467-0867	名古屋市瑞穂区春敲町2-13	(052)882-3152	(052)882-3170
大同大学図書館	学校法人 大同学園	坂倉 守昭	〒457-8530	名古屋市南区滝春町10-3	(052)612-6873	(052)612-6108
中京大学図書館	学校法人 梅村学園	佐藤 隆	〒466-8666	名古屋市昭和区八事本町101-2	(052)835-7157	(052)835-1249

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
中部大学附属 三浦記念図書館	学校法人 中部大学	岡崎 明彦	〒487-8501	春日井市松本町1200	(0568)51-4317	(0568)52-1510
同朋大学・ 名古屋音楽大学図書館	学校法人 同朋学園	大岡 訓子	〒453-8540	名古屋市中村区稲葉地町7-1	(052)411-1951	(052)411-1120
東海学園大学図書館	学校法人 東海学園	青山 広	〒468-8514	名古屋市中村区中平2丁目901	(052)801-1528	(052)804-1192
豊田工業大学 総合情報センター	学校法人 トヨタ学園	大石 泰丈	〒468-8511	名古屋市中村区久方2-12-1	(052)809-1743	(052)809-1744
豊田工業高等専門学校 図書館	独立行政法人 国立 高等専門学校機構	伊東 孝	〒471-8525	豊田市栄生町2-1	(0565)36-5904	(0565)36-5920
豊橋技術科学大学 附属図書館	国立大学法人	大貝 彰	〒441-8580	豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1	(0532)44-6562	(0532)44-6566
豊橋創造大学 附属図書館	学校法人 藤ノ花学園	宮原 英夫	〒440-8511	豊橋市牛川町松下20-1	(050)2017-2105	(050)2017-2115
名古屋大学附属図書館	国立大学法人	森 仁志	〒464-8601	名古屋市中村区不老町	(052)789-3666	(052)789-3693
名古屋外国語大学・ 名古屋学芸大学図書館	学校法人 中西学園	諫早 勇一	〒470-0188	日進市岩崎町竹ノ山57	(0561)75-1726	(0561)75-1727
名古屋学院大学 学術情報センター	学校法人 名古屋学院大学	伊藤 昭浩	〒456-8612	名古屋市中村区熱田西町1-25	(052)678-4092	(052)682-6826
名古屋経済大学・ 名古屋経済大学短期 大学部図書館	学校法人 市邨学園	田口 義明	〒484-0000	犬山市字樋池61-22	(0568)67-3798	(0568)67-9321
名古屋芸術大学 附属図書館	学校法人 名古屋自由学院	長田 謙一	〒481-8503	北名古屋市熊之庄古井281	(0568)26-3121	(0568)24-0393
名古屋工業大学 附属図書館	国立大学法人	内匠 逸	〒466-8555	名古屋市中村区御器所町	(052)735-5098	(052)735-5102
名古屋産業大学・ 名古屋経営短期大学 図書館	学校法人 菊武学園	菅井 径世	〒488-8711	尾張旭市新居町山の田3255-5	(0561)55-3081	(0561)55-5985
名古屋商科大学 中央情報センター	学校法人 栗本学園	浅野 一明	〒470-0193	日進市米野木町三ヶ峯4-4	(0561)73-2111 (代表)	(0561)73-1202
名古屋女子大学 学術情報センター	学校法人 越原学園	越原洋二郎	〒467-8610	名古屋市長久区汐路町3-40	(052)852-9768	(052)852-1830
名古屋市立大学 総合情報センター	公立大学法人 名古屋市立大学	三澤 哲也	〒467-8501	名古屋市長久区瑞穂町字山の畑1	(052)872-5795	(052)872-5781
名古屋造形大学図書館	学校法人 同朋学園	東仲 雅明	〒485-8563	小牧市大字大草字年上坂6004	(0568)79-1255	(0568)47-0361
名古屋短期大学図書館	学校法人 桜花学園	小川 雄二	〒470-1193	豊明市栄町武待48	(0562)97-1725	(0562)97-1703
名古屋文理大学 図書情報センター	学校法人 滝川学園	山住 富也	〒492-8520	稲沢市稲沢町前田365	(0587)23-2400 (代表)	(0587)21-2844
名古屋柳城短期大学 図書館	学校法人 柳城学院	村田 康常	〒466-0034	名古屋市中村区区明月町2-54	(052)841-2635	(052)841-2697
南山大学図書館	学校法人 南山学園	森山 幹弘	〒466-8673	名古屋市中村区山里町18	(052)832-3163	(052)833-6986
日本赤十字豊田看護大学 図書館	学校法人 日本赤十字学園	上村 治	〒471-8565	豊田市白山町七曲12-33	(0565)36-5119	(0565)37-7897
日本福祉大学 付属図書館	学校法人 日本福祉大学	亀谷 和史	〒470-3295	知多郡美浜町大字奥田字会下前 35番6	(0569)87-2325	(0569)87-2795
人間環境大学 附属図書館	学校法人 河原学園	岡 良和	〒444-3505	岡崎市本宿町字上三本松6-2	(0564)48-7815	(0564)48-7815
藤田学園医学・ 保健衛生学図書館	学校法人 藤田学園	橋本 修二	〒470-1192	豊明市香掛町田楽ヶ窪1-98	(0562)93-2420	(0562)93-2649
名城大学附属図書館	学校法人 名城大学	山本 忠弘	〒468-8502	名古屋市中村区塩釜口1-501	(052)832-1151 (代表)	(052)833-6046

図書館名	法人名	館長	郵便番号	住所	電話	FAX
<input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> 三重県 <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> (7)						
皇學館大学附属図書館	学校法人 皇學館	小木曾一之	〒516-8555	伊勢市神田久志本町 1704	(0596)22-6322	(0596)22-6329
鈴鹿医療科学大学 附属図書館	学校法人 鈴鹿医療科学大学	藤原 芳朗	〒510-0293	鈴鹿市岸岡町 1001-1	(059)340-0337	(059)383-9915
鈴鹿大学附属図書館	学校法人 享栄学園	石川 拓次	〒510-0298	鈴鹿市郡山町 663-222	(059)372-3950	(059)372-2827
鈴鹿大学短期大学部 附属図書館	学校法人 享栄学園	石川 拓次	〒510-0298	鈴鹿市郡山町 663-222	(059)372-3950	(059)372-3909
三重大学附属図書館	国立大学法人	加納 哲	〒514-8507	津市栗真町屋町 1577	(059)231-9083	(059)231-9086
三重県立看護大学 メディアコミュニケーションセンター 附属図書館	公立大学法人 三重県立看護大学	小池 敦	〒514-0116	津市夢が丘 1-1-1	(059)233-5608	(059)233-5668
津市立三重短期大学 附属図書館		石原 洋介	〒514-0112	津市一身田中野 157	(059)232-2341	(059)232-9647

役員館一覽

東海地区大学図書館協議会役員館一覽（平成14年度～平成29年度）

年度	総会 当番館	研修会 会場館	会長館	運営委員会	機関誌編集 委員会	監事会	研修企画 小委員会	ホームページ 小委員会
				会長 国立3、公立3、私立4（短大1を含む） オブザーバ：総会当番館	会長 編集委員は会長 の指名	総会で選出、監事 館の図書館長が監 事となる	会長館 国立、公立、私 立の運営委員館 から各1館 研修会会場館	会長館 国立、公立、私 立の運営委員館 から各1館
平成 14 年度	金城学院 大学	名古屋 大学 名古屋 市立大学	名古屋 大学	愛知教育大学 岐阜大学 豊橋技術科学大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 相山女学園大学 金城学院大学 皇學館大学 愛知女子短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 岐阜大学 愛知県立看護大学 金城学院大学 研修会会場館	
平成 15 年度	岐阜県立 看護大学	名古屋 大学 相山女学 園大学		浜松医科大学 三重大学 名古屋工業大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 ／静岡県立大学短期大学部（H17） 南山大学 中京大学 東海女子大学 名古屋経済大学短期大学部	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学			
平成 16 年度	南山大学	名古屋 大学 岐阜大学	名古屋 大学	静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知教育大学 愛知県立看護大学 名古屋市立大学 静岡県立大学短期大学部（H18） ／三重短期大学（H19） 名城大学 中部大学 中京女子大学 名古屋柳城短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 南山大学	名古屋大学 静岡大学 名古屋市立大学 中部大学 研修会会場館	名古屋大学 三重大学 豊橋技術科学大学 名古屋市立大学 中京女子大学
平成 17 年度	名古屋工業大学	中京大学 名古屋 大学		岐阜大学 浜松医科大学 三重大学 名古屋工業大学 愛知県立看護大学（H20）／愛知県立大学（H21） 津市立三重短期大学 愛知淑徳大学 同期学園大学 豊田工業大学 鈴鹿短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学			
平成 18 年度	名城大学	岐阜県立 看護大学 名古屋 大学	名古屋 大学	名古屋工業大学 静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知学院大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 静岡大学 名古屋市立大学 中部大学 研修会会場館	名古屋大学 豊橋技術科学大学 名古屋市立大学 中京女子大学
平成 19 年度	愛知県立 芸術大学	名古屋 大学 中部大学		名古屋工業大学 静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知学院大学				
平成 20 年度	愛知淑徳 大学	浜松医科 大学 名古屋 大学	名古屋 大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 浜松医科大学 名古屋市立大学 同期学園大学	名古屋大学 三重大学 豊橋技術科学大学 名古屋市立大学 名古屋学院大学
平成 21 年度	名古屋 大学	同期学園 大学 名古屋 大学		名古屋工業大学 静岡大学 豊橋技術科学大学 愛知学院大学				
平成 22 年度	名古屋外 国語大学 ・名古屋 学芸大学	静岡県立 大学 名古屋 大学	名古屋 大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名城大学	名古屋大学 静岡大学 名古屋市立大学 豊橋創造大学 静岡県立大学	名古屋大学 三重大学 豊橋技術科学大学 名古屋市立大学 名古屋学院大学
平成 23 年度	名古屋 市立大学	豊橋創造 大学 名古屋 大学		愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学				
平成 24 年度	中京大学	三重大学 名古屋 大学	名古屋 大学	愛知教育大学 岐阜大学 浜松医科大学 愛知学院大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 名古屋外国語大学 名古屋学芸大学	名古屋大学 岐阜大学 愛知学院大学 名古屋経済大学 三重大学	名古屋大学 浜松医科大学 名古屋市立大学 名古屋芸術大学
平成 25 年度	静岡大学	名古屋経 済大学 名古屋 大学		愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学				
平成 26 年度	中部大学	愛知県立 芸術大学 名古屋 大学	名古屋 大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学	岐阜薬科大学 中京大学	名古屋大学 静岡大学 愛知学院大学 名古屋外国語大学 名古屋学芸大学 愛知県立芸術大学	名古屋大学 名古屋市立大学 名古屋工業大学 名古屋商科大学
平成 27 年度	愛知県立 大学	名古屋外 国語大学 ・名古屋 学芸大学 名古屋 大学		愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 愛知学院大学				

平成 28 年度	名古屋 学院大学	名古屋 工業大学 名古屋 大学	名古屋 大学	岐阜大学 愛知教育大学 豊橋技術科学大学 愛知県立大学 名古屋市立大学 岐阜市立女子短期大学 名古屋学院大学 南山大学 同朋大学・名古屋造形大学 桜花学園大学・名古屋短期大学	愛知教育大学 岐阜大学 名古屋工業大学 名古屋市立大学 愛知学院大学	愛知県立芸術大学 中部大学	名古屋大学 愛知教育大学 愛知県立大学 南山大学 名古屋工業大学	名古屋大学 愛知教育大学 名古屋市立大学 同朋大学・名古屋造形大学
平成 29 年度	豊橋技術 科学大学	名古屋 大学					名古屋大学 愛知教育大学 愛知県立大学 南山大学	

研修会一覧

東海地区大学図書館協議会研修会一覧（平成元年度～平成28年度）

年度	年月日	会場	演題	講師	所属
元	元.12.5	名城大学	学術情報サービスの展開と大学図書館	門條 司	化学情報協会
			アダム・スミスの蔵書をめぐって	水田 洋	名城大学
	2.1.31	名古屋大学	大学図書館の未来像	丸山昭二郎	鶴見大学
2	2.11.29	名古屋大学	Collection building について	川原 和子	三重大学
			大学図書館とニュー・メディア	橋爪 宏達	学術情報センター
	3.1.30	大同工業大学	『経済学文献季報』のデータベース化について－KEIS から KEIS II へ 私の日本の古典文献とのつきあい	山内 隆文 朝倉 治彦	名古屋学院大学 四日市大学
3	3.11.8	名古屋学院大	ドイツ及び英国の図書館事情	牧村 正史	名古屋大学
			江戸時代の出版	長島 弘明	名古屋大学
	4.1.17	愛知県図書館	目録システムにおけるハイパーテキストの適用可能性 新図書館概要説明及び見学	石塚 英弘 鈴木 康之	図書館情報大学 愛知県図書館
4	4.10.21	南山大学	慶應義塾大学の新しい試み－マルチメディアの統合－	原田 悟	慶應義塾大学
			図書館の施設計画に関連して	加藤 彰一	名古屋大学
	5.3.19	名古屋大学	カリフォルニア大学バークレー校の図書館システム 電子情報サービスの新しい展開	棚橋 章 寺村 謙一	名古屋大学 丸善(株)
5	6.1.26	施設見学会：けいはんなインフォザール			
	6.3.23	愛知医科大学	シーボルトと中京の学者たち 大学図書館におけるコレクション形成・管理の意義と問題点	武内 博 三浦 逸雄	東京学芸大学 東京大学
6	6.12.6	愛知学院大学	アメリカ図書館最新事情	渡辺 和代 川瀬 正幸	名古屋アメリカン センター 名古屋大学
			地域・館種を越えた図書館サービス－すべての図書館をすべての利用者に－	雨森 弘行	三重県立図書館
	7.2.22	施設見学会：三重県図書館			
7	7.10.27	名古屋大学	鯨と捕鯨の文化史	森田 勝昭	甲南女子短期大学部
			研究図書館としての電子図書館の事例－機能と運営－	渡辺 博	奈良先端科学技術 大学院大学
	7.12.7	愛知工業大学	シンポジウム：利用者教育の在り方－方法と問題点－	光斎 重治 高橋 一郎 四谷あさみ 堀 茂 金子 豊	中部大学 愛知県立大学 愛知淑徳大学 名古屋大学 名古屋大学
8	8.10.24	名古屋大学	インターネット、イントラネットを前提とした図書館情報サービスの将来	後藤 邦夫	南山大学
			電子図書館の諸相：US Berkeley Digital Library Project と Ariadne97	谷口 敏夫	光華女子大学
	8.12.4	愛知淑徳大学	シンポジウム：NDC 新版9版について	石山 洋 万波 涼子 中井えり子 酒井 信	東海大学 名古屋市立大学 名古屋大学 名城大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
9	9.10.30	名古屋大学	英国大学図書館における電子情報サービスの進展	尾城 孝一	東京工業大学
			フランス国立図書館 BNF	篠田知和基	名古屋大学
9	9.12.10	朝日大学	講演 歌うコンピュータ・描くコンピュータ・マルチメディア時代への布石-	板谷 雄二	朝日大学
			フォーラム：マルチメディアと電子図書館-図書館機能におけるホームページ-	津田 明美 林 哲也 鈴木 康生 三浦 基	愛知工業大学 浜松医科大学 名古屋大学 南山大学
10	10.12.5	名古屋大学	テーマ：電子ジャーナルの"いま"と"こんご" 講演 デジタルメディアの現状と今後	逸村 裕	愛知淑徳大学
			電子ジャーナルの事例報告 EES, Science Direct FirstSearch, FirstSearch ECO Journals@ovid, HighWire Press	エルゼビア 紀伊國屋書店 ユサコ	
10	10.12.16	岐阜経済大学	テーマ：大学図書館における電子情報サービスの実際 ネット時代の教育・研究環境と図書館の活用	松島 桂樹	岐阜経済大学
			電子情報サービスの事例報告	安田多香子 野村 千里 夏目弥生子	愛知県立大学 南山大学 名古屋大学
11	11.11.2	名古屋大学	テーマ：著作権法と大学図書館 大学図書館にかかわる著作権問題	石倉 賢一	千葉大学
			電子図書館サービスと著作権	山本 順一	図書館情報大学
11	11.12.7	岐阜女子大学	テーマ：大学図書館と学生用図書 大学教育改革と学生用図書	柴田 正美	三重大学
			事例報告	江口 愛子 吉根佐和子 福井 司郎	浜松医科大学 名古屋市立大学 中京大学
12	13.1.18	愛知教育大学	テーマ：大学図書館における相互協力 大学図書館における相互協力	石井 啓豊	図書館情報大学
			事例報告	平井 芳美 濱口 幾子 加藤 直美	名古屋大学 愛知県立看護大学 愛知工業大学
12	13.3.9	名古屋大学	テーマ：大学図書館の管理・運営 大学図書館の管理・運営	長谷川豊祐	鶴見大学
			コンソーシアムを視野においた大学図書館の運営	松下 鈞	国立音楽大学
13	13.12.20	大同工業大学	テーマ：古文書の整理と保存：電子メディア変換（画像） による利用について 講演 古文書の整理と保存	秋山 晶則	名古屋大学
			事例報告 徳島大学附属図書館貴重資料高精細デジタルアーカイブ - 21世紀地域ネットワークへの試み -	岡田 恵子	徳島大学
13	14.1.24	名古屋大学	テーマ：図書館の電子化と所蔵資料を核とした地域との 連携 デジタル時代の図書館	逸村 裕	名古屋大学
			所蔵資料の高度活用を目指して-地域の博物館・図書館等の連携-	種田 祐司	名古屋市博物館
14	14.12.13	名古屋大学	テーマ：学術情報の電子化を考える 講演 学術情報の電子化が意味するもの-研究者の立場から 考える-	倉田 敬子	慶應義塾大学
			事例報告 名古屋大学における電子ジャーナルの現状について	澄川千賀子・ 川添 真澄	名古屋大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
14	15. 3. 4	名古屋市立大学	テーマ：現代の大学図書館と著作権 講演 現代の大学図書館と著作権	土屋 俊	千葉大学
15	15.12.15	名古屋大学	テーマ：図書館のサービス・マネジメントと評価 講演 図書館のサービス・マネジメント：顧客の選好と評価	永田 治樹	筑波大学
	16. 2.19	椋山女学園大学	テーマ：SPARC の現状と SPARC/JAPAN の今後について 講演 SPARC の現状と SPARC/JAPAN の今後について	安達 淳	国立情報学研究所
16	16.12.17	名古屋大学	テーマ：電子的学術情報利用の進展と今後の展望 事例報告 名古屋大学の電子図書館化計画－機関リポジトリ構築計画を中心にして－ 医学系図書館の電子ジャーナル状況と日本医学図書館協会電子ジャーナルコンソーシアムの現状 電子ジャーナルの利点と課題－サイエンス・ダイレクトを例に－	郡司 久 坪内 政義 高橋 昭治	名古屋大学 愛知医科大学 エルゼビアジャパン
	17. 3. 3	ぱるるプラザ GIFU	テーマ：大学図書館におけるアウトソーシング 事例報告 日本福祉大学付属図書館におけるアウトソーシング アウトソーシングを活用した大学図書館運営－立命館大学における現状と課題－ アウトソーサーからみたアウトソーシング	岡崎 佳子 田中 康雄 図書館流通センター	日本福祉大学 立命館大学
17	17.12. 2	中 京 大 学	テーマ：図書館情報リテラシー指導の現状－各大学の事例報告－ 基調講演 大学図書館と情報リテラシー	逸村 裕	名古屋大学
			事例報告 名古屋大学附属図書館における情報リテラシー教育 図書館情報リテラシー教育－小さな図書館、小さな学部での試み－ 中京大学図書館 情報リテラシー教育の現状 ニッチ戦略（隙間産業）で、大学に貢献できる情報リテラシー教育支援を目指す－三重大学附属図書館の取組－ 岐阜県立看護大学図書館における利用教育 大学ポータルを中心とした名古屋学院大学の情報環境	次良丸 章 原 泰子 春日井 正人 杉田 いづみ 井上 貴之 中田 晴美	名古屋大学 名古屋市立大学 中京大学 三重大学 岐阜県立看護大学 名古屋学院大学
	18. 1.30	名古屋大学	テーマ：利用者サイドに立つ図書館サービス 講演 北米大学図書館における利用者中心の図書館サービス 利用者の利用行動に基づいた図書館サービス	シャロン・ドマイヤー 越塚 美加	マサチューセッツ大学 学習院女子大学
18	19. 1.12	岐阜県図書館	テーマ：大学図書館の地域連携 事例報告 相互利用協定と愛知県内図書館の ILL 定期便設置実証実験 静岡県内の大学図書館における連携について 岐阜県における公共図書館との連携図書館 東海目録（TOMcat）：病院図書室と大学図書館の連携 図書館の教育支援、地域支援：豊田高専の英語多読を通して	村上 昇平 大石 博昭 木村 晴茂 坪内 政義 西澤 一	愛知県図書館 静岡大学 岐阜大学 愛知医科大学 豊田工業高等専門学校
	19. 3. 7	名古屋大学	テーマ：Web2.0 時代の図書館サービス 基調講演 Web2.0 時代の図書館 講演 図書館利用者の情報探索活動に関する実証的研究 Web2.0 時代の新たな図書館サービスの展開	岡本 真 寺井 仁 林 賢紀	Academic Resource Guide 名古屋大学 農林水産省

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
19	19.11.28	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル， データベース等）	雨森 弘行 河谷 宗徳 栗野 容子	お茶の水女子大学 三重大学 名古屋大学
	19.11.28	名古屋大学	図書館情報リテラシー教育 ILL 大学図書館の最近の動向・海外事情	紅露 剛 万波 涼子 松林 正己	南山大学 名古屋市立大学 中部大学
	20. 3. 5	中部大学	テーマ：魅力ある大学図書館をめざして 講演 どこから拓く？ 大学図書館の可能性－学習支援の視点から ここから拓いた－お茶大図書館活性化のための5つの作戦	井上 真琴 茂出木 理子	同志社大学 お茶の水女子大学
20	20.12.22	アクトシティ 浜 松	テーマ：図書館と著作権 講演 図書館業務と著作権 映像資料の利用と著作権法について	南川 貴宣 三浦 正広	文化庁著作権課 国土館大学
	21. 3. 4	西尾市岩瀬文庫	テーマ：学芸員の世界 岩瀬文庫見学 講演 学芸員の仕事 - 内藤記念くすり博物館の世界－ 学芸員の仕事 - 岩瀬文庫の世界－	野尻 佳与子 林 知左子	内藤記念くすり博物館 西尾市岩瀬文庫
21	21.12. 3	同朋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル， データベース等） 情報リテラシー教育 ILL 大学図書館と広報	雨森 弘行 河谷 宗徳 栗野 容子 久田 睦美 榊原 佐知子 渡邊 敏之	前お茶の水女子大学 三重大学 名古屋大学 名古屋市立大学 愛知医科大学 名古屋造形大学
	22. 2.23 22. 3. 5 22. 3.10	名古屋大学	保存修復講演会・講習会 テーマ：図書資料の保存と修復 講演 紙資料の保存修復 講習会 修復実務講習会	金山 正子 岩田 起代子	元興寺文化財研究所 前名古屋産業大学・ 名古屋経営短期大 学図書館
22	22.12. 9	名古屋大学	テーマ：実践で役立つレファレンス・ツール - 国立国会図書館提供ツールを中心に－ 講義1 講義2	兼松 芳之	国立国会図書館
	23. 3.16	静岡県男女 共同参画 センター あざれあ	テーマ：電子書籍を中心とした資料のデジタル化の動向 と図書館の今後 講演 変革期のデジタル化と図書館－国立国会図書館の動向 を中心に－ 電子書籍の急速な普及と大学図書館	中井 万知子 竹内 比呂也	国立国会図書館関 西館 千葉大学
23	23.12.15	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 大学図書館職員に求められているもの 資料の収集～目録・分類 電子情報（電子ジャーナル， データベース等） ILL プレゼンテーション入門 カナダの大学図書館事情	加藤 信哉 河谷 宗徳 堀 友美 万波 涼子 近田 政博 ゴードン・ コールマン	名古屋大学 三重大学 名古屋大学 名古屋市立大学 名古屋大学 静岡大学
	24. 3. 8	名古屋大学	テーマ：災害時における危機管理 事例報告 そのとき私たちができたこと－東北大学附属図書館が 遭遇した東日本大震災－ 私の東日本大震災体験－図書館の被害と復旧を中心と して	小陳 左和子 和知 剛	東北大学 郡山女子大学

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
24	24.12.15	名古屋大学	テーマ：海外大学図書館にみる学習支援 報告 香港、シンガポール、オーストラリアの大学図書館におけるラーニング・コモنزの整備及び学習支援の現状 講演 大学図書館が実施する学習支援・教育支援サービス 北米の事例から見えるもの パネルディスカッション	山田 政寛 橋 洋平 森部 圭亮 仲秋 雄介 池上 佳芳里 高橋 里江 神谷 知子 長澤 多代 近田 政博 (コーディネーター)	金沢大学 金沢大学 静岡大学 名古屋大学 金沢大学 静岡大学 名古屋大学 三重大学 名古屋大学
	25. 3.13	三 重 大 学	テーマ：図書館資料の補修について 講義 図書館における資料保存の基本的な考え方 実習 簡易な補修 - 破れのつくろい、外れたページの差し込み	大竹 茂 大竹 茂	国立国会図書館 国立国会図書館
25	25.12.13	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 激動の時代を生き抜くために 情報リテラシー教育 ILL(相互貸借) 電子情報(電子ジャーナル、電子ブック、データベース等) 分類・目録 プレゼンテーション入門	白木 俊男 新海 弘之、 草間 知美 島田 美津穂 林 和宏 揚野 敏光 近田 政博	富山大学 愛知県立大学 愛知大学 名古屋工業大学 名古屋大学 名古屋大学
	26. 3. 3	名古屋経済大学 (名駅サテライト キャンパス)	テーマ：西洋古典籍資料の整理・保存について 講演 歴史的製本の修理について 洋書の扉	岡本 幸治 高野 彰	製本家、アトリエ・ ド・クレ主宰 元跡見学園女子大学
26	26.12.19	愛知県図書館	テーマ：「機関リポジトリの基礎知識と最新動向」 講演 学術コミュニケーションの動向 機関リポジトリの実務 著作権・学位論文を中心に 事例報告 地域からの事例報告 全体質疑・意見交換	杉田 茂樹 三隅 健一 林 和宏 宮坂 昌樹 鈴木 雅子 (コーディネーター)	千葉大学 北海道大学 名古屋工業大学 愛知大学 静岡大学
	27. 2.16	静岡大学 (浜松キャンパス)	※静岡県大学図書館協議会と共催 テーマ：学生を振り向かせる！伝わるポスター作成術 講演 基礎) ポスター、チラシ、プレゼンテーションに必要な要素 理論) コミュニケーション理論から見た広報 実践) 便利なツール、テクニック、キャッチコピーの つくり方 広報カウンセリング ポスターを作ってみよう	はやのん	理系漫画家
27	27.12. 7	名古屋大学	「図書館職員基礎研修」 講義 「最近の図書館の動向 ～素敵な図書館と素敵なライブラリアンとの出会い～」 情報リテラシー教育 ILL(相互貸借) 電子情報(電子ジャーナル、データベース等) 分類・目録 グループ討議・発表	中村 直美 松森 隆一郎 加藤 直美 吉岡 文 小島 由香	愛知大学 愛知県立大学 愛知工業大学 浜松医科大学 名古屋大学
	28. 3. 7	名古屋外国語大学 ・ 名古屋学芸大学	テーマ：伝わる声の出し方・話し方 講演(実習含む)	赤間 裕子	声と話し方コンサル タント

年度	年月日	会 場	演 題	講 師	所 属
28	28.11.22	名古屋大学	テーマ：無線綴じ資料の補修 講演（実習含む）	板倉 正子	特定非営利活動法人書物の歴史と保存修復に関する研究会
	29. 2. 6	名古屋工業大学	テーマ：古典籍の基礎知識 講演 洋古典籍はどんな姿をしているのか 水田文庫整理にたずさわって 古典籍書誌DBのすすめ	高野 彰 中井 えり子 塩村 耕	元跡見学園女子大学 元名古屋大学 名古屋大学

「東海地区大学図書館協議会誌」掲載記事の電子的公開，転載，学術機関リポジトリでの公開について

- ・著作権は著作者本人にあります。
- ・著作者本人が，ホームページ等で電子的公開，転載，あるいは学術機関リポジトリへ搭載する場合，著作者本人からの申請書等の提出は必要ありません。

(平成19年7月9日 東海地区大学図書館協議会運営委員会(第19-1回)決定)

東海地区大学図書館協議会誌 第62号(2017)

平成29年12月26日印刷

平成29年12月28日発行

編集・発行 東海地区大学図書館協議会事務局
名古屋市千種区不老町 名古屋大学附属図書館内
電話 052-789-3666

ホームページ <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tokai/>

振込先 三菱東京UFJ銀行今池支店 普通預金 口座 1747229